

4.21  
295

大正二年度京都府立農事試驗場業務功程

京都府立農事試驗場



始





大正二年度京都府立農事試驗場業務功程

目次

本場之部

(一)	水稻ニ關スル試驗	一
一、	豐凶考照試驗	一
二、	品種試驗	四
三、	豫備品種試驗	九
四、	株距離試驗	一
五、	深耕下肥料用量試驗	一
六、	石灰窒素效果比較試驗	一
七、	石灰窒素連用試驗	一
八、	石灰窒素施用法試驗	一
九、	同價肥料試驗	一
一〇、	能登特産石灰肥効試驗	一
一一、	播種對一株苗數試驗	一
一二、	磷酸肥料肥効比較試驗	一
一三、	採種用作	一

大正  
3. 11. 2  
内交

〇〇九八七六五四三二  
頁頁頁頁頁頁頁頁頁頁

(二) 麥作ニ關スル試驗

一、	豐凶考照試驗.....	二
二、	品種試驗.....	一
三、	深耕試驗.....	二
四、	深耕ト肥料用量試驗.....	二
五、	石灰窒素連用試驗.....	二
六、	石灰窒素殘効試驗.....	二
七、	石灰窒素施用方法試驗.....	二
八、	畦形對播種法試驗.....	三
九、	發芽播試驗.....	三
一〇、	農商務省委託麥芽用大麥試驗.....	一〇〇

(三) 調査事業

一、	稻麥特性調査.....	三
二、	分蘖方調査.....	三

(四) 見本試作

(五) 圓筒夏作試驗

二頁 一頁 一頁

(六) 圓筒各作試驗

一、	三要素試驗.....	三
二、	腐植質土壤三要素試驗.....	三
三、	腐植質土壤石灰適量試驗.....	三
四、	腐植質土壤石灰加用試驗.....	三
五、	硫酸アンモニヤ肥効比較試驗.....	三
六、	腐植質土壤燒土試驗.....	三

(七) 委託試驗

一、	三要素試驗.....	三
二、	石灰窒素施用期試驗.....	三
三、	腐植質土壤石灰加用試驗.....	三
四、	酸性土壤石灰加用試驗.....	三
五、	腐植質土壤三要素試驗.....	三
六、	硫酸アンモニヤ肥効比較試驗.....	三

(八) 養

一、	水稻委託試驗.....	三
二、	竹林自然枯病ニ關スル委託試驗.....	三
養	鶏.....	三

(九) 病虫ニ關スル試験

一、	麥類黑穗病豫防試験	三
二、	麥ノ斑葉病ト播種期トノ關係試験	三
三、	前年發生ノ麥新病害豫防試験	三
四、	竹ノ自然枯病對肥料試験	三
五、	胡瓜ノ露菌病豫防試験	三
六、	馬鈴薯疫病豫防驅除試験	四
七、	稻熱病豫防驅除試験	四
八、	寺田李新病害試験	四
九、	マスクメロン莖腐病試験	四
一〇、	葱ノ腐敗病調査	四
一一、	葉菜類病害調査	四
一二、	竹ノ病虫害調査	四
一三、	栗樹病虫害調査	四
一四、	茶樹病虫害調査	四
一五、	標本採集	四
一六、	二化螟虫ニ關スル調査	四
一七、	害虫飼育	四

桃山分場之部

(一) 果樹ニ關スル試験

一、	品種比較試験	四
	梨	五
	桃	六
	李	七
	櫻	七
	葡萄	七
	柿	九
二、	品種見本試験	九
	梨	九
	桃	〇
	苹果	一
	枇杷	一
	柑	一
三、	肥料試験	一
四、	果樹病害試験區	二

(二) 蔬菜之部

一、	品程比較試驗	五三三頁
	大根	五三三頁
	葱類	五三三頁
	馬鈴薯	五三三頁
	里芋	五三三頁
二、	里芋大小ト收量ノ關係試驗	五三三頁
三、	里芋堆肥施用量試驗	五四四頁
四、	馬鈴薯莖本數試驗	五四四頁
五、	高等栽培マスキメロン	五五五頁
(三) 花卉之部		
(一) 蔬菜ニ關スル試驗		
一、	甘藍品種試驗	五七七頁
二、	甘藍肥料試驗	五七七頁
三、	甘藍人糞尿用量試驗	五七八頁
四、	葱頭品種試驗	五七八頁

五、	夏大根播種期試驗	五九九頁
六、	蠶豆品種試驗	五九九頁
七、	葱取扱法試驗	五九九頁
八、	菜菔品種試驗	六一〇頁
九、	薑品種試驗	六一〇頁
一〇、	薯蕷品種試驗	六一〇頁
一一、	里芋品種試驗	六一〇頁
一二、	甘藷播種期試驗	六一〇頁
一三、	菜豆品種試驗	六一〇頁
一四、	蕪菁品種試驗	六一二頁
一五、	蕪菁播種期試驗	六一二頁
一六、	蕪菁肥料試驗	六一三頁
一七、	秋大根播種期試驗	六一三頁
一八、	大根人糞尿用量試驗	六一三頁
一九、	苾品種試驗	六一四頁
二〇、	深葱品種試驗	六一四頁
二一、	漬菜窒素質肥料試驗	六一五頁
二二、	漬菜三要素適量試驗	六一五頁
二三、	葱同價肥料試驗	六一六頁
二四、	苾播種期試驗	六一七頁

(二) 果樹ニ關スル試驗

一、	梨品種試驗	六	六
二、	葡萄品種試驗	六	九
三、	苹果品種試驗	七	七
四、	柿樹品種試驗	七	七
五、	洋梨品種試驗	七	七
六、	梅樹品種試驗	七	七
七、	桃ノ品種試驗	七	七
八、	生栗殺虫法試驗	七	七
九、	生栗貯藏法試驗	七	七

(三) 見本試作

一〇、	生栗貯藏力試驗	七	七
一一、	栗品種試驗	七	七
一二、	栗開園法試驗	七	七
一三、	栗樹整枝法試驗	七	七
一四、	栗砧木試驗	七	七
一五、	栗嫁接期試驗	七	七

雜之部

(一)(二)(三)(四)(五)(六)(七)(八)(九)(十)

(一)	圖書發刊	七	三
(二)	野鼠驅除實施成績	七	三
(三)	依頼分析件數	七	四
(四)	場用分析件數	七	五
(五)	酸性土壤調查數	七	六
(六)	職員出張件數	七	七
(七)	種苗配布數	七	七
(八)	質問應答件數	七	八
(九)	文書受發件數	七	九
(十)	來觀人數	七	九

(三)(二) 會計事務員……………七九頁

職 員……………八〇頁

### 大正二年度京都府立農事試驗場業務功程

大正二年度京都府立農事試驗場本場及分場ニ於テ施行セシ試驗事項及成績並ニ其他事項左ノ如シ

#### 本場ノ部

##### (一) 水稻ニ關スル試驗

##### 一、豊凶考照試驗

本試驗ハ明治三十五年度ヨリ繼續セルモノニシテ年々同一地ニ同一品種ヲ等一管理耕種ノ下ニ早中晩稻各三品種宛ヲ栽培シ、大暑、二十日秋分當時ニ於ケル生育狀況ニヨリ毎回之ヲ平年ト比較對照シ以テ其年ニ於ケル稻作豊凶ヲ豫想シ之ヲ其筋ニ報告セリ

供試品種

早 稻	森 早 生	信州金子	福 山
中 稻	伊 勢 錦	コボレ	ピツクリ
晚 稻	雄 町	竹 成	コケ十

##### 大暑期ニ於ケル作況

豊凶考照試驗供試稻ハ五月四日播種シ六月二十三日插秧セリ移植後降雨少ク氣温高ク日照時間多ク爲メニ生育頗ル良好ナリト雖モ一部螟虫發生シ尠カラサル被害アリ  
即チ大暑當日調査セル結果左表ノ如シ



種別	大正二年度		前年度		前十二ヶ年平均		前年度比較増減		前十二ヶ年平均比較増減	
	草丈	一莖數	草丈	一莖數	草丈	一莖數	草丈	一莖數	草丈	一莖數
早稻三種平均	一・八八	八・三	一・六一	六・六	一・七六	五・五八	二・二七	一・六	二・三	二・六二
中稻三種平均	一・七五	六・三	一・五三	六・一	一・七〇	六・一三	二・二	二	〇・五	〇・七
晚稻三種平均	一・六五	八・三	一・五一	七・七	一・五六	六・九三	二・四	七	〇・九	一・三七
早稻三種平均	三・六四	一・三六	三・五六	七・六	三・三八	九・三	〇・八	六・〇	二・六	四・三
中稻三種平均	三・八一	一・三四	三・七六	九・〇	三・四四	一・〇八	〇・五	四・四	三・七	二・六
晚稻三種平均	二・九八	一・七七	二・九六	一・〇七	二・七九	一・三一	〇・二	七・〇	一・九	四・六

附記 前年度迄ノ耕種法ハ播種期五月十日前後播種量ハ坪四合蒔ナリシモ昨年度ヨリ播種期ヲ早メ播種量ヲ坪當二合トセリ

二百十日ニ於ケル作況  
 本期間ノ氣象良好ナリシ結果其成育頗ル優良ニシテ出穂ハ平均早生稻八月二十九日ニシテ前年ニ比シ四日遅キモ前十二ヶ年ニ比シ一日早ク中稻ハ目下出穂中晚稻ハ穂朶中ニテ前年ニ比シ何レモ二三日間後レタル模様ナリシモ前十二ヶ年ニ比スレバ一二日間ヲ早メ分蘗數ハ前年及前十三ヶ年ニ比シ何レモ頓ニ増加シ目下ノ狀況ニヨリ今後何等ノ災害ナカリセハ平年作ニ比シ一割以上増收ノ見込ナリトス今當日調査シタル成績ヲ掲グレバ左表ノ如シ

秋分期ニ於ケル作況

二百十日以後ノ氣候ハ稍ヤ低温ナリシモ概ネ適順ニシテ風雨ノ害ナク頗ル強壯ナル發育ヲナシ草丈ハ前年ニ比シ何レモ二寸以上多ク伸長シ而シテ出穂ハ平均早稻ハ八月二十九日ニシテ中稻ハ九月三日晚稻ハ九月九日ニ出穂シ前年ニ比シ早稻ハ四日、中稻ハ五日晚稻ハ七日間何レモ後レ前十二ヶ年ニ比シ早稻ハ一日早ク晚稻ハ二日遅レタリト雖モ一株莖數即チ穂數ニアリテハ早稻ハ十四本九分中稻ハ十四本二分晚稻ハ十七本五分ニシテ前年ニ比シ早稻ハ五本五分、中稻ハ四本一分、晚稻ハ六本何レモ多シ、斯ク分蘗數多キ結果一穂ノ粒數ニ於テ平年ニ比シ少ナキ感アリ亦目下二回目螟虫不撻發生シ多少被害アリト見做スモ尙平年作ニ比シ一割内外ノ増收アル見込ナリ

大雪期ニ於ケル作況

本年度水稻作況ハ屢々報告セシ如ク秋分迄ノ氣象ハ頗ル適順從ツテ作況甚ダ良好ナリシモ秋分後俄ニ氣温低下シ爲メニ晚稻ニ於テハ結實ニ傷害ヲ與ヘ前期報告セシ如キ成績ヲ見ルニ至ラザリシガ其收量ハ前年度ニ比シ早稻ハ一分八厘、前十二ヶ年平均ニ比シ一割一分三厘ノ増收ヲ示シ、中稻ハ前年度ニ比シ六分強前十二ヶ年平均ニ比シ一割一分一厘ノ増收ヲ示シ晚稻ニ至リテハ前年度ニ比シ約一割ノ減收ヲ見タリ、是ヲ前十二ヶ年平均ニ比セバ一割二分一厘ノ増收ノ割合トナレリ、今其一段歩當收量及前年度トノ比較對照ヲ示セバ左表ノ如シ

種別	大正二年度		大正元年度		前十二ヶ年平均		前年比較増減		前十二ヶ年平均比較増減	
	收量	一升重量	收量	一升重量	收量	一升重量	收量	一升重量	收量	一升重量
早稻三種平均	二・六一二	三九・六七	二・五六四	三八・〇〇	二・二七六	三七・七六	〇・〇四八	一・六七	〇・三三六	一九・一
中稻三種平均	二・六八九	三八・七	二・五三五	三七・八〇	二・四〇五	三七・五四	〇・一五四	一・〇七	〇・二八四	一三・五

晚稻	三九二・七	三・一六八	三八四・〇	二・三五二	三七七・三	〇・二八七	四・一	〇・五二九	一五・五
三種平均	二・八八一	三九二・七	三・一六八	三八四・〇	二・三五二	〇・二八七	四・一	〇・五二九	一五・五
各平均	二・七二七	三九二・七	二・七五六	三八〇・七	三・三四四	〇・〇八五	一〇・五	〇・三八三	一五・九七

二、品種試験

明治三十九年度ニ於テ從來試験セル成績ニ基キ選定シタル品種ヲ標準トシ前年及ビ前々年度本府下各郡ニ於テ栽培セル品種ニ付キ其性状ヲ究メ分類上ノ型ニヨリテ得タルモノト農事試験場畿内支場ニ於テ育成セラレタル品種トニ付キ其優劣ヲ比較シ更ニ本府適應ノ品種ヲ撰擇セントスルニアリ  
供試品種ハ  
標準種 十二種（粳十種、糯二種）  
是ニ六十四種ヲ加ヘタル七十六品種ナリ  
今是ガ成績ノ大要ヲ示セバ左ノ如シ

粳 稻 種

品 種 名	出 穂 期	收 穫 期	當一反歩 玄米收量 升重量	玄米一 升重量	藁 量	米質ノ 良 否	種子取寄先	備 考
六十八日	八月十三日	十月四日	二・八五三	三八九	一三三・八〇〇	一等	宇治郡農會	
尾張早生	同	同	二・六六四	三八八	一三三・五〇〇	二等	南桑田郡農會	
白坊	同	同	二・三二一	三九一	一四一・九〇〇	一等	北桑田郡農會	
四ツ屋	同	同	二・八七一	三九二	一三二・七〇〇	二等	加佐郡農會	
徳四郎	同	同	二・七二三	三九四	一五二・一〇〇	一等	中郡農會	
大白	同	同	二・六五三	三九〇	一五八・七〇〇	同	同	

品 種 名	出 穂 期	收 穫 期	當一反歩 玄米收量 升重量	玄米一 升重量	藁 量	米質ノ 良 否	種子取寄先	備 考	
明上	治州	九月八日	十一月三日	三・〇〇〇	三九六	二二二・八〇〇	二等	級喜郡農會	
大白	州	八月十四日	十月四日	二・六五五	三八九	一六〇・八〇〇	一等	新瀨縣立農試	
大	州	同	同	二・二三九	三九二	一〇五・三〇〇	二等	歐州伊太利	
有	岡	同	同	二・〇三五	三九四	一一九・七〇〇	一等	何鹿郡農會	
米	山	同	同	二・八一七	三九〇	一五三・〇〇〇	二等	乙訓郡農會	
朝	山	同	同	二・七八一	三九八	一六一・四〇〇	一等	竹野郡農會	
周	山	同	同	二・九四三	三九二	一八二・七〇〇	同	葛野郡農會	
丹	波	八月三十日	同	二・四四五	三九一	一三九・七四〇	同	同	
大和	出	同	同	二・六一八	三九四	一五〇・六〇〇	同	南桑田郡農會	
大	錦	九月五日	同	二・五四七	三九〇	一七九・四〇〇	同	船井郡農會	
箱	崎	同	同	二・五八八	三九四	一五七・八〇〇	同	同	
渚	同	同	同	二・五三九	三九六	一八六・〇〇〇	同	南桑田郡農會	
西	同	同	同	三・〇二六	三九〇	一八九・七八〇	二等	中郡農會	
大	寺	同	同	三・〇六四	三八二	一〇二・五六〇	三等	葛野郡農會	
中	國	同	同	二・九八九	三八八	一九五・九三〇	二等	加佐郡農會	
佐	力	同	同	三・一〇一	三九〇	二七九・七八〇	同	何鹿郡農會	
キ	良	同	同	二・七四四	三八九	一四五・二〇〇	一等	畿内支場	母×大信州金子場
筑	前	同	同	二・八七六	三九三	一九九・九五〇	同	南桑田郡農會	母×五ヶ早稻
キ	早	同	同	三・〇九二	三八九	一三八・〇〇〇	同	畿内支場	父×神五ヶ早稻

江州	早生	器良	竹成	雄町	福山	八重	東者	長勢	伊勢	大原	福島	小本	月同	キ中	キ中	キ中
穗九月十日	力八月廿九日	好九月七日	成同	町九月九日	山八月三十日	穗同九月九日	京同九月五日	穗八月廿七日	錦同八月廿七日	原同六月六日	島同七月九日	本同九月九日	同六月六日	同四七號	同四號	同二號
十一月四日	十月三十日	十一月五日	同	十一月五日	十月廿一日	同十五日	同	十一月二日	十月三十日	同二日	同五日	十月卅一日	十一月二日	九月九日	同	同
三・七五	二・六四九	三・一六〇	二・二一六	三・三五一	二・六七三	三・一九六	二・六五九	三・七五一	三・八七九	三・一〇九	三・〇二三	三・五四〇	二・九二一	三・一九八	二・六二七	二・九二八
三・八九	三・九一	三・九一	三・九五	三・八五	三・九三	三・八九	三・八九	三・八八	三・九一	三・八九	三・九〇	三・八九	三・八八	三・九二	三・九一	三・八九
二・五九・八四〇	一・六〇・八〇〇	二・〇三・八〇〇	二・〇五・八〇〇	二・一八・四〇〇	一・五九・〇〇〇	二・四三・六〇〇	一・七九・五五〇	二・二五・七二〇	一・七七・〇〇〇	一九五・八四〇	一八一・五〇〇	一九九・一〇〇	二〇四・〇〇〇	二一七・八〇〇	一四九・七〇〇	一四四・四〇〇
同	同	同	二等	同	一等	二等	同	同	同	一等	同	二等	一等	同	同	同
葛野郡農會	朝鮮模範農會	葛野郡農會	三重縣立農事試驗場	山口縣立農事試驗場	鳥取縣	乙訓郡農會	船井郡農會	北桑田郡農會	三重縣	同	葛野郡農會	加佐郡農會	乙訓郡農會	同	同	同
父母×福神	父母×竹宿	父母×荒神	父母×力木	父母×山力												

新播	大政	鬼大	東大	改良	美濃	精早	小生	白一	京一	キ晚	キ晚	同	同	神
州同	官同	熊同	寺同	本同	生同	力同	錦同	本同	本同	二號	五號	一二號	七號	力同
六月十日	七月十一日	十二月五日	九月十三日	八月九日	八月廿八日	九月十日	九月十日	八月八日	十月卅一日	十一月十一日	九月九日	十一月十一日	九月九日	十一月十一日
三・〇五〇	三・一九一	二・五五九	二・七八〇	二・八九九	二・六八五	二・九八九	二・七五六	二・四七三	二・五八四	二・五九七	二・二九二	二・五一〇	二・五二五	二・九五二
三・八四	三・九一	三・八七	三・八五	三・八七	三・九〇	三・八九	三・九二	三・九三	三・九〇	三・八四	三・八九	三・九〇	三・八五	三・八三
二一八・二四〇	二一五・六〇〇	二九七・二〇〇	二八六・六〇〇	二二〇・八〇〇	一一三・二〇〇	二二一・〇〇〇	二一七・九二〇	二二二・九六〇	一九四・八〇〇	二一九・四〇〇	二二三・六〇〇	二四三・一六〇	二一〇・六〇〇	二〇七・六〇〇
同	同	同	同	二等	二等	同	一等	二等	二等	二等	同	同	同	同
宇治郡農會	綴喜郡農會	農事試驗場	宇治郡農會	綴喜郡農會	竹野郡農會	綴喜郡農會	愛知縣立農事試驗場	宇治郡農會	加佐郡農會	畿内支場	同	同	同	兵庫縣揖保郡
父母×神	父母×和	父母×力	父母×海	父母×益										



オ	中	小	岡	與	符	播	岩	奈	八	藤	善	千	目	三	男	中	赤	キ	キ
サ	村	志					清	良	ツ	光		黒	井	熟	神	芒	早	早	早
ヨ	穂	馬	山	助	隠	州	水	保	倉	七	寺	本	本	同	同	同	同	同	同
八月廿九日	同	九月九日	八月廿九日	九月九日	九月九日	九月九日	九月九日	九月九日	九月九日	九月九日	九月九日	九月九日	九月九日	九月九日	九月九日	九月九日	九月九日	九月九日	九月九日
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
二・五三一	二・八九四	三・二四	二・七一一	三・一五八	二・九八〇	三・〇〇五	二・九四四	三・〇〇九	二・七九一	三・一五八	二・五一一	三・五三二	三・一九七	四・二二〇	三・〇五三	三・二〇二	二・八四八	三・〇四五	二・九八五
三九〇	三九一	三九一	三九一	三九一	三九一	三九一	三九一	三九一	三九一	三九一	三九一	三九一	三九一	三九一	三九一	三九一	三九一	三九一	三九一
一三四・四〇〇	一四五・八〇〇	二六六・一〇〇	一六九・二〇〇	二六四・八四〇	二八二・〇〇〇	二八二・〇〇〇	二八二・〇〇〇	二八二・〇〇〇	二八二・〇〇〇	二八二・〇〇〇	二八二・〇〇〇	二八二・〇〇〇	二八二・〇〇〇	二八二・〇〇〇	二八二・〇〇〇	二八二・〇〇〇	二八二・〇〇〇	二八二・〇〇〇	二八二・〇〇〇
一等	二等	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
天田郡農會	何鹿郡農會	同	中郡農會	葛野郡農會	同	乙訓郡農會	綴喜郡農會	同	南桑田郡農會	加佐郡農會	中郡農會	竹野郡農會	同	乙訓郡農會	葛野郡農會	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

榮	地	黒	赤	住	赤	相	目	更	多	晚	彌	晚	大	小	朝	龜	穀	戊
藏	早	青	吉	吉	佐	德	利	科	撰	笹	生	稻	關	腹	山	治	都	都
吾	生	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
九月六日	同	八月十三日	九月六日	九月六日	八月廿九日	八月廿九日	九月九日	九月九日	九月九日	九月九日	九月九日	九月九日	九月九日	九月九日	九月九日	九月九日	九月九日	九月九日
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
二・三〇二	二・七四五	二・六五一	二・九八二	二・五九七	二・七五五	三・三八一	二・九二四	二・八九八	三・一九〇	二・六〇九	三・〇六七	二・八九一	三・一四九	二・七五五	二・七四	四・五七〇	三・〇〇一	二・九〇一
三八八	三九三	三九二	三八八	三八八	三八八	三八八	三八八	三八八	三八八	三八八	三八八	三八八	三八八	三八八	三八八	三八八	三八八	三八八
一八〇・〇〇〇	一四八・八〇〇	一六八・六〇〇	二一九・九〇〇	二〇三・一六〇	二〇七・〇〇〇	二六六・四〇〇	二三八・八六〇	二八五・七二〇	二六一・八四〇	三〇八・四〇〇	三〇六・二〇	二九八・八六〇	二一三・〇〇〇	一〇八・〇〇〇	一八六・〇〇〇	一三六・五〇〇	一五八・四〇〇	二八・四〇〇
二等	同	一等	同	同	同	同	同	同	同	二等	三等	同	同	同	同	二等	同	一等
北桑田郡農會	葛野郡農會	何鹿郡農會	同	竹野郡農會	同	愛媛縣立農試	同	同	同	同	同	同	同	同	同	島根縣立農試	同	山口縣立農試
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

昨年品種試験中ニ  
加ヘタルモ本年ヨ  
リ特性調査用トシ  
テ加入  
品種試験中ヨリ省  
テ加入

四、株距離試験

插秧當時苗ノ分蘖セルト然ラザルトハ收量ニ如何ナル關係ヲ及ボスヤヲ驗スルト同時ニ株距離ノ適度ヲ究メントス

苗代播種量ヲ減ゼバ苗代期間ニ於テ既ニ三本以上ニ分蘖セルアリ亦中ニハ分蘖セザルモノアリ、各之ヲ一粒植トナサンニハ其株間即一坪ニ植付クベキ株數ハ幾何ヲ以テ好適トスルカ前項試験ト相俟ツテ其適否ヲ知ラントス

今是レガ成績ノ大要ヲ示セバ左ノ如シ

試驗區名	當一反歩玄米收量	玄米一升重量	備考
分蘖苗(三本以上ノモノ)	三〇二七	三八九	方一尺
一本立苗	二〇九一六	三九三	同
分蘖苗	三〇九一七	三八〇	東西一尺 南北八寸六分
一本立苗	三〇一三二	三九〇	同
分蘖苗	三〇二〇七	三九二	東西一尺 南北七寸五分
一本立苗	二〇六一一	三九一	同
分蘖苗	三〇二四五	三七七	東西一尺 南北六寸六分
一本立苗	二〇七〇五	三八六	同
分蘖苗	三〇〇四二	三九三	東西一尺 南北六寸
一本立苗	二〇八一六	三八八	同

五、深耕ト肥料用量試験

右成績ニヨレバ分蘖苗一本立苗共ニ四十二株植收量最モ多ク六十株植最モ劣レリ亦分蘖苗對一本立苗ハ何レモ分蘖苗ノ優レルヲ見タリ

耕地耕耨ノ深淺ニ對シ肥料ノ用量ヲ異ニスルニ於テ耕地ノ性質ニ如何ナル變化ヲ來シ稻作ニ如何ナル影響アルヤヲ知り且ツ肥料ノ得失ヲ知ラントスルモノナリ

耕土ハ肥料ヲ保蓄シ作物ノ吸收ヲ待ツモノニシテ耕耨ノ深淺如何ハ肥料保蓄ノ度ニ強弱ヲ生ズベシ茲ニ於テ本場ノ如キ表土三寸ノ深サヲ有スル埴質壤土ニシテ底土壤質埴土ナル地ニ於ケル肥料ノ用量ノ增加ガ如何ナル影響ヲ及ボスカヲ知ラントス

是レ從來本場ニ於ケル深耕試験ノ成績ガ深耕當初ニ於テ生育不良ナルヲ以テ之ガ改良ヲ施肥量ノ增加ニ俟タントスルヲ以テナリ

今是ガ成績ノ大要ヲ示セバ次ノ如シ

試驗區名	當一反歩玄米收量	玄米一升重量	備考
(一) 多肥料區	三〇六〇〇	三八九	多肥區ハ普通肥料ノ五割増トス
一、普通耕	二〇六〇二	三八七	
二、一寸深耕	三〇七六〇	三九〇	
三、二寸深耕	三〇七六〇	三九〇	
(二) 少肥料區	三〇七六〇	三九〇	少肥區當場普通肥料トス
一、普通耕	三〇七六〇	三九二	

二、一寸深耕	三〇四四五	三九〇
三、二寸深耕	三〇四六九	三九三

六、石灰窒素効果比較試験

水稻作肥料トシテ石灰窒素ノ肥効ヲ知ラントス  
 但シ前作ハ麥ノ普通栽培ヲ爲シ稻作ニ於テノミ同地ニ等一肥料ヲ施用ス  
 試験區別 硫酸安母尼亞ヲ對照肥料トナシ反應ヲ二様ニシ左ノ四區トス

試驗區名	當反玄米收量	玄米一升重量	備考
甲 硫酸安母尼亞	同	同	硫酸加里
乙 同	同	同	木 硫酸加里
甲 石灰窒素	同	同	木 硫酸加里
乙 同	同	同	木 硫酸加里
同 石 窒 乙 甲	三〇一三五 二〇九八一 二〇九八七	三九〇 三九三 三八九	
同 石 窒 乙	三〇一〇四	三九〇	

今是ガ成績ヲ示セバ左ノ如シ

七 石灰窒素連用試験

同一地ニ石灰窒素ヲ各作連用スルニ際シ石灰窒素ノ肥効ヲ永年ニ亘リ驗知セントスルモノニシテ効  
 果試験ト相俟テ之ヲ知ラントシ左記ノ六區ニ分チ試験セリ

硫酸アンモニア	甲	過磷酸石灰	硫酸加里
石灰窒素	乙	同	木 硫酸加里
無窒素	甲	同	木 硫酸加里
	乙	同	木 硫酸加里

今是ガ成績ノ大要ヲ示セバ左ノ如シ

試驗區名	當一反歩玄米收量	玄米一升重量	備考
硫酸アンモニア 甲	二〇六七〇	三八七	
同 乙	二〇八九七	三八五	
石灰窒素 甲	二〇七三九	三九一	
同 乙	三〇〇六二	三九〇	
無窒素 甲	二〇三〇三	三九四	
同 乙	二〇五一八	三八四	

右成績ニヨレバ石灰窒素區ハ硫酸アンモニア區ニ優リ配合肥料タル硫酸加里對木灰ハ何レモ木灰區優  
 レリ

八、石灰窒素施用方法試験

石灰窒素施用ノ時期ト方法トヲ知ラントスルモノナリ元來石灰窒素ハ下種又ハ栽植ノ際施用スルトキハ有害作用ヲ呈スルヲ以テ普通二週間前ニ施スヲ適當ナリトセリ、然ルニ本府ノ如キ二毛作地大部分ヲ占ムル地方ニ於テハ前後作ノ期間短キヲ以テ是ガ施用ノ良法ヲ究メントスルモノニシテ左ノ六區ニ分チ試験セリ

- 第一、插秧二週間前圃場ニ施用
- 第二、二週間前肥ト混ジ置キ插秧日前ニ施用
- 第三、石灰窒素ヲ施サズ
- 第四、插秧一週間前圃場ニ施用
- 第五、一週間前肥ニ混ジ置キ插秧前ニ施用
- 第六、插秧當日施用

今是ガ成績大要ヲ示セバ左ノ如シ

試験區名	一反歩玄米收量	玄米一升重量	備	考
插秧二週日前施用	二・八八三	三八六		
插秧二週日前肥ニ混合	二・七八二	三九一		
石灰窒素施用セズ	二・二一六	三九〇		
插秧一週日前施用	二・九五八	三八六		
插秧一週日前肥中ニ混合	三・二五三	三九四		
插秧當日施用	二・七六六	三八九		

九、同價肥料試験

府下各地ニ使用セラル、各種ノ人造肥料其他ノ肥料ニ就キ其價格ヲ同一ニシテ是ガ肥効ノ優劣ヲ知ラントスルモノニシテ何レモ堆肥反當百五十貫匁ヲ施シ供試肥料價ハ何レモ反當金五圓トセリ供試肥料名並ニ各種肥料價及之ガ反當リ施用量ヲ示セバ左ノ如シ

肥料品種名	十貫匁ニ對スル肥料代價	反當施肥量	備	考
◎ 稻 肥 料	貳圓四拾五錢	二〇・四〇〇	京都人造肥料會社製造	
◎ 別製稻肥料	參圓八拾五錢	一三・〇〇〇	同	
長尾肥 料	貳圓八拾錢	一七・八五〇	丹後宮津長尾庄助	
タ印多木肥料	參圓五拾錢	一四・三〇〇	多木製肥所	
參號完全肥料	四 圓	一二・五〇〇	大日本人造肥料會社	
ル印多木肥料	四 圓	一二・五〇〇	多木製肥所	
第六號アルカリ肥料	四圓參拾錢	一一・六三〇	大阪アルカリ株式會社	
第八號アルカリ肥料	參圓五拾錢	一四・三〇〇	同 社	
鯨 油 粕	五圓五拾錢	九・一〇〇	北海道産	
菜 種 油 粕	參 圓	一六・六七〇	大阪産	
大 豆 粕	貳圓參拾錢	二一・七〇〇	支那産	

附記 肥料價格ハ當場附近賣買相場トス

今是ガ本年度ニ於ケル成績ノ大要ヲ示セバ左ノ如シ



試驗區名	反當玄米收量	玄米一升重量	備	考
① 稻肥料	三・一六一	三九二		
② 別製稻肥料	三・一八九	三八五		
長尾肥料	二・八六三	三九〇		
タ印多木肥料	二・八九六	三九四		
ル印多木肥料	三・一六六	三八二		
第三號 日星肥料	三・一二〇	三九七		
第六號アルカリ肥料	三・二二三	三九一		
第八號アルカリ肥料	二・九七六	三九七		
鯨油粕	三・〇〇九	三八八		
菜油粕	三・三一七	三八七		
大豆粕	三・一一二	三九二		
無石灰	二・六〇四	三九〇		二四五・六〇〇

一〇、能登特産石灰肥効試驗  
 有機質肥料ト共ニ普通石灰ヲ施用セルモノト能登特産石灰ヲ施用セルモノトノ効力ノ差異ヲ知ラン  
 トスルモノナリ  
 今是ガ本年度ニ於ケル成績ノ大要ヲ示セバ次ノ如シ

試驗區名	反當玄米收量	玄米一升重量	藁量(反當)
特産石灰 反四十貫	二・九七七	三八九	一九八・九〇〇
普通石灰 反四十貫	三・三〇九	三九一	一六七・三八〇
特産石灰 反六十貫	三・三六一	三八九	二二一・五〇〇
普通石灰 反六十貫	三・五三六	三九一	二〇六・七四〇
一一、播種量對一株苗數試驗 同一面積ニ播種スベキ種子量ノ多少ト一株ニ植付クベキ本數ノ多少トノ關係ハ其成育收量ニ如何ナル影響ヲ及ボスカヲ知ラントスルモノナリ 今是ガ本年度ニ於ケル成績ノ大要ヲ示セハ次ノ如シ			
一合 本植	三・〇九七	三九一	二二二・五五〇
二合 本植	三・一四三	三九四	二〇〇・四〇〇
三合 本植	三・〇七七	三九二	二〇七・〇〇〇
四合 本植	三・一六三	三九二	二一一・四一〇
五合 本植	三・〇五三	三九四	一九二・〇三〇
三合 本植	三・二一八	三九一	二一四・〇八〇
四合 本植	二・九三八	三九三	二〇〇・四〇〇
五合 本植	三・一九二	三九五	二〇三・五五〇
五合 本植	三・二八七	三八三	一七六・〇四〇
五合 本植	三・〇九三	三九二	一九一・九四〇

一二、磷酸肥料肥効比較試験  
 稻作ニ就キ有機性及無機性磷酸肥料ノ肥効ヲ知ラントス  
 今是ガ本年度ニ於ケル成績ノ大要次ノ如シ

試驗區名	當反立米收量	立米一升重量	藁量(反當)
過磷酸石灰區	二〇八七七	三九三	一九七・五〇〇
蒸製骨粉	二〇二六二	三八四	一九六・七〇〇
骨粉	二〇八〇八	三九二	一八六・五〇〇
無磷區	三〇〇〇九	三九二	一八三・二〇〇

一三、採種用作

當場品種試驗中優良ナル左記ノ品種ヲ栽培シ特別ナル注意ヲ以テ充分陶汰精撰シ種子用トシテ一般  
 當業者各郡農會並ニ管外希望者ノ望ミニヨリ配布セントス

- 早生稻 大場、有岡
- 早中稻 福山、伊勢錦、米山、朝日
- 中稻 東京、中生神力、畿内中二號、月本
- 晚稻 八重穗、竹成、雄町、神力、西方寺
- 糯稻 篠原糯、元氣糯

(一) 麥作ニ關スル試驗

一、豊凶考照試驗

本試驗ハ明治三十三年度ヨリ繼續シ太小裸麥各三品種ヲ同一地ニ同一栽培法ヲ行ヒ一定時期ニ於テ  
 其ノ生育狀況ヲ調査シ其成績ヲ毎回之レヲ累年ト比較對照シ其年次ニ於ケル豊凶ヲ豫想シ是レヲ其  
 筋ニ報告ス

- 大麥 白瀧 五畝四石 九升坊
- 小麥 寶滿 保津 白坊主
- 裸麥 屋根裸 鎌折 小首
- 參考 ゴルデンメロン

春分期ニ於ケル作況

豊凶考照試驗供試麥ハ十一月十日ニ播種シ裸麥大麥ハ同二十五日、小麥ハ同二十八日孰レモ整一ニ  
 發芽セリ、而シテ播種當日ヨリ一月ニ至ル間ノ氣候ハ割合ニ適順ナリシモ一月以降殊ニ二月及三月  
 初旬ノ寒冷甚ダシク加フルニ降雨頻リニ到リ伸長ニ多大ノ影響ヲ及ボセリ、今春分當日ノ調査セル  
 結果ヲ表示セバ次ノ如シ

種別	大正二年		大正元年		前十二年平均		前年比較増減		前十二年平均比較増減	
	草丈	一尺間莖數	草丈	一尺間莖數	草丈	一尺間莖數	草丈	一尺間莖數	草丈	一尺間莖數
裸麥二種平均	七・三	九一・七	一二・七	一〇四・一	七・六	八三・三	減	五・四	減	〇・三
大麥二種平均	七・三	八一・八	一〇・七	九六・九	七・六	九七・七	同	三・五	同	〇・四
小麥二種平均	七・六	九四・八	一五・五	一〇五・四	八・〇	七六・九	同	七・九	同	〇・四

立夏期ニ於ケル作況

春分當日ヨリ立夏當日ニ至ル期間ノ氣候ハ稍適順且ツ温暖ニシテ麥ノ發育可良ナリシモ前期温度寒  
 冷ナリシ爲メ出穂期多少後レタリ即チ大麥ハ四月二十四日ヨリ五月一日ニ亘リ裸麥ハ四月二十二日  
 ヨリ同二十八日ニ小麥ハ五月六日ヨリ目下出穂中ナリ即チ本期ニ於ケル調査ニ於テ考フルニ初期氣  
 温寒冷並ニ日照時間少ク加フルニ降雨多カリシ爲メ素質軟弱ニシテ爲メニ病虫害ニ侵サル、モノ不  
 鈔然レ共分蘖數多ク良ク繁茂セルガ故ニ現今ノ状態ニテ今後災害ナカリセバ平年ニ勝ルトモ劣ルコ  
 トナカルベシ

今本期ニ於ケル出穂期ヲ表示セバ次ノ如シ

種別	大正二年	大正元年	前十二ヶ年平均	前年比較遅速	前十二ヶ年平均比較遅速
大麥	三種平均 四月二十九日	三種平均 四月二十六日	三種平均 四月二十九日	遲三日	同
小麥	三種平均 未定	三種平均 五月一日	三種平均 五月三日	遲一日	同
裸麥	三種平均 四月二十四日	三種平均 四月二十日	三種平均 四月二十一日	遲四日	速二日

大暑期ニ於ケル作況

本年冬作生育期中ハ概シテ氣温低ク初期ノ生育不良ナリシモ其後ノ氣温稍適順ニシテ加之降雨少ク  
 晴天良ク續キ只刈取期ニ到リテ曇天打チ續キ成熟充分ナラズ爲メニ品質劣等ニシテ一升ノ重量少シ  
 ト雖ヘドモ收量ニアリテハ大小麥ヲ通ジテ別表ノ如キ豊作ヲ見タリ、今是レガ成績ヲ示セバ次ノ如  
 シ

種別	大正二年		大正元年		前十二ヶ年平均		前年比較増減		前十二ヶ年平均比較増減	
	收量	二升重量	收量	二升重量	收量	二升重量	收量	二升重量	收量	二升重量
裸麥二種平均	二・八三二	三・八一	二・四九一	三・五九	一・六六〇	三・六五	增	三・四一	增	二・一六
大麥二種平均	三・四六八	二・八七	三・〇四〇	二・九一	二・四六八	二・七九	同	四・三八	減	〇・九〇
小麥二種平均	二・三二五	三・五九	二・一五八	三・五八	一・八三〇	三・四六	同	一・六七	增	〇・四九
麥酒用大麥	三・八四四	三・一六	二・七〇一	三・四五	二・七四三	三・三四	同	三・九二	減	一・〇九九

二、品種試験

本試験ハ從來ノ試験成績ニヨリ撰定シタル優良種、大麥倍取、小麥、寶滿、裸麥ハ屋根裸ヲ標準ト  
 シテ更ニ各地ニ就キ蒐集シタル大麥二十一種、小麥十九種、裸麥二十七種ヲ試作シテ成績良好ナル  
 モノヲ撰拔シ以テ府下ニ適スル良種ヲ得ントスルモノニシテ、其内主ナルモノヲ擧グレバ次ノ如シ

大麥ノ部

種別	項目	成熟期	收量	反量	備考
ケ	重	六月五日	四・七五五	一八八、四〇〇	標準種
三	取	六月一日	三・九三九	一八九、三〇〇	
倍	取	同	三・九六六	一八六、三〇〇	
白	郎	同	三・七七四	一八九、九〇〇	
愛宕在來	第一號	同	三・五九七	一五二、一〇〇	
愛宕在來	第二號	同	三・六六九	一九一、一〇〇	



和歌山	六月十六日	二・六二五	一八九、九〇〇	標準種
谷光	同 十三日	二・七四八	二三九、一〇〇	
何鹿	同 十六日	二・八二八	一五八、一〇〇	
船井	同 十六日	二・六六九	一八二、四九〇	
肥後	同 十三日	二・八九〇	一八六、九〇〇	
葛野	同 十六日	二・五一七	一一七、〇〇〇	
寶滿	同 十六日	二・四一八	一八五、七〇〇	

三、深耕試験

深耕ノ深淺ガ麥作ニ及ボス關係如何ヲ知ラントスルモノニシテ深耕法ハ普通法一寸深耕二寸深耕ノ三區トシ更ニ地方ノ習慣ニヨリ高作ト平作トノ二區ニ分チ合計六區トシテ試験セリ  
其成績ニヨレバ高作ニアリテハ普通耕最モ良ク深耕度ヲ進ムルニ從ヒ却ツテ其收量ヲ減ズ平作ニアリテハ一寸深耕最モ良ク普通耕之ニ次ギ一寸深耕最モ劣レルヲ見ル尙高作ト平作トヲ比スルトキハ後者ノ方一般ニ收量多シ之當場ハ圃場ノ土壤乾燥シ排水良好ナレバナリ今其成績ヲアグレバ次ノ如シ

試驗區名	反當收量	試驗區名	反當收量
高作、普通耕	二・〇六〇	平作、普通耕	二・二五二
一寸深耕	一・九八八	一寸深耕	二・三九二
二寸深耕	一・六三二	二寸深耕	一・九八八

四、深耕ト肥料用量試験

深耕ノ深淺ニ對シ施肥量ヲ異ニスルトキハ麥作ニ如何ナル影響ヲ及ボスカヲ驗知セントス  
試驗區別ハ深耕ノ度ヲ前試驗同様トナシ地方ノ習慣ニヨリテ多肥區ト少肥區トニ分テリ、試驗成績次ノ如シ

試驗區名	反當收量
第一區 少肥 普通耕	二・七〇〇
第二區 同 一寸深耕	二・二〇八
第三區 同 二寸深耕	二・二九八
第四區 多肥 普通耕	二・三二八
第五區 同 一寸深耕	二・四〇〇
第六區 同 二寸深耕	二・三二二

五、石灰窒素連用試験

同一地ニ石灰窒素ヲ各作連用スルトキニ於ケル石灰窒素ノ肥効ヲ永年ニ亘リ驗セントスルモノニシテ窒素連用試験ニ比較セントス  
試驗區ヲ分チテ次ノ六區トス

區名	肥料	配合
第一區	硫酸アンモニア	甲 過磷酸石灰 硫酸加里 配
第二區	硫酸アンモニア	乙 過磷酸石灰 木灰 配
第三區	石灰窒素	甲 過磷酸石灰 硫酸加里 配

第四區、石灰窒素 乙 過磷酸石灰 木灰 配 合  
 第五區、無窒素 甲 過磷酸石灰 硫酸加里 配 合  
 第六區、無窒素 乙 過磷酸石灰 木灰 配 合  
 各區共發芽ハ整正ニシテ善ク成熟ハ第五區不正ナルモ他ハ畧整ナリ稈長ハ第一區ヨリ第六區ニ向ヒ漸次ニ其高サヲ減ズ、收量ニ付キ其結果ヲ見ルニ硫酸アンモニア施用區最モ良ク石灰窒素施用區ハ遙ニ劣ルヲ見ル其成蹟ヲ舉グレバ次ノ如シ

第一、硫酸アンモニア 甲 二、〇一〇 第二、硫酸アンモニア 乙 二、〇四〇  
 第三、石灰窒素 甲 一、四九四 第四、石灰窒素 乙 一、四三〇  
 第五、無窒素 甲 〇、四八五 第六、無窒素 乙 〇、九八四

六、石灰窒素殘効試驗  
 水稻ニ於ケル石灰窒素効果比較試驗區ノ跡地ニ於テ普通栽培法ニヨリテ麥作ヲ行ヒ以テ石灰窒素ノ殘効ヲ知リ併セテ同試驗ノ參考ニ資ヒントスルモノニシテ左記ノ四區ニ分テテ之ヲ行フ

第一區、硫酸アンモニア 過磷酸石灰 木灰 配 合  
 第二區、硫酸アンモニア 過磷酸石灰 硫酸加里 配 合  
 第三區、石灰窒素 過磷酸石灰 木灰 配 合  
 第四區、石灰窒素 過磷酸石灰 硫酸加里 配 合

今成蹟ヲ舉グレバ次ノ如シ

試驗區名	反當收量
第一區 硫酸アンモニア (甲)	二・二六一

第二區 硫酸アンモニア (乙)	二・三〇六
第三區 石灰窒素 (甲)	二・五一一
第四區 石灰窒素 (乙)	二・四一一

七、石灰窒素施用試驗

石灰窒素施用ノ時期ト方法トニ付キテ研メ麥作ニ好適シ而モ應用シ易キ施用法ヲ查知セントス石灰窒素ハ下種栽植ノ際施用スルトキハ有害作用ヲ呈スルヲ以テ之ヲ避ケンガタメ二週日前ニ施スナ至當トセラレタリ、然ルニ本府大部分ノ麥作ハ水田裏作ニシテ前後作ノ期間短ク之ガ施用ノ方法ヲ研究シ其ノ期日ヲ短縮シ得ル法ヲ案ズルニアラザレバ未ダ一般ニ施用セラルニ至ルヤ難シ然ルニ本肥料ハ將來廣ク使用セラル、ニ至ルベキ窒素肥料ナルベキヲ以テ之ガ施用方法ヲ知ルハ目下ノ急務ナリトス

本試驗ニ於ケル本年度ノ成蹟ハ左ノ如シ

試驗區名	一反步收量
第一區 二週間前ニ施ス	一・四五六
第二區 二週間堆肥ニ混ズ	一・六九七
第三區 石灰窒素ヲ施サズ	一・一九三
第四區 一週間前ニ施用	一・三七〇
第五區 一週間堆肥ニ混ジ置キ施用	一・三二四
參考區 當日施用	一・〇〇七

二週間堆肥中ニ混ジテ施用セルモノ收量最モ多ク二週間前ニ施スモノ之ニ次ギ當日施用區最モ劣レルヲ見ル

八、畦形對播種法試驗

畦立ノ方法並ニ播種法ノ異ナルニ從ヒテ其生育收量ニ及ボス關係ヲ驗セントスルモノニシテ普通法高畦法(甲)高畦法平播(乙)及普通平播法ノ四區ニ分チテ行ヘルガ收量ハ普通法最モ多ク高畦普通平播ハ大差ナク高畦平播最モ劣レリ、供試品種ハ大麥倍取裸麥ハ屋根裸トス

試驗區名	反當收量	備考
第一區 普通法	三・四三五	各區二區平均
第二區 高畦法(甲)	二・八四三	
第三區 高畦法平播(乙)	二・四四五	
第四區 普通平播	二・七〇二	

九、發芽播試驗

各種ノ事情ニヨリ播種期ノ後ル、場合ニ於テ豫メ種子ノ發芽ヲ促シ播種スルノ利害ヲ驗セントスルモノニシテ試驗區ヲ普通蒔(十一月二十日)發芽蒔(同上)普通蒔(十二月一日)發芽蒔(同上)ノ四區トシテ之ヲ行ヒシニ總テノ區共發芽播ハ普通蒔ニ劣レリ供試品種ハ大麥倍取裸麥ハ屋根裸トス

試驗區名	反當收量
第一區 普通蒔	三・七五七

第二區 發芽蒔	十一月二十日蒔	二・三四七
第三區 普通蒔	十二月一日蒔	三・五八三
第四區 發芽蒔	十二月一日蒔	三・〇六四

一〇、農商務省委托麥芽用大麥試驗

農商務省委托ニ係ル麥芽用大麥試驗ハ次ノ如ク施行セリ

品種比較試驗

肥料(窒素用量)試驗

收穫期試驗

本試驗ハ本年度ヲ以テ完結追テ成績報告ヲ以テ發表スベシ

(三) 稻麥ニ關スル調査事項

一、稻麥特性調査

當場試作ノ各品種ヲ稻ハ一本植麥ハ一粒蒔トナシ發芽後收穫ニ至ルマデノ生育狀況及收穫後ノ種實稈稈ニ付キ地方農事試驗場會議ニ於テ協定セル式ニ準據シ詳細ナル調査ヲナシタリ

二、分蘖力調査

大小稈各品種ヲ一粒蒔トナシ之ガ分蘖力ヲ調査シ播種量ノ參考ニ供スルト同時ニ劣等株ヲ排除シ以テ明年度品種試驗用種子ニ供セリ

(四) 見本試作

蔬菜及果樹類ニ付キ内外ノ優良品種ヲ蒐集シ模範作トシテ一定面積内ニ於ケル輪作法ノ研究并ニ病虫害驅除豫防ノ範ヲ示セリ、又樂用、工藝用、庭園用木ヲ蒐集シ來觀者ノ參考ニ供シ尙採種シ得ラル、モノニ付キテハ採種ヲナシ隨時希望者ニ配布セリ

(五) ポット夏作(水稻)

一、三要素試験

本場土壤三要素天然供給量ハ肥料ノ反應如何ニヨリ異ナルベキヤ否ヤヲ知リ併セテ三要素ノ何レニカ偏シタル場合ノ影響如何ヲ查知セムトスルモノニシテ其成績ニヨレバ本場ノ土壤ハ窒素ニ缺乏スルコト甚敷モ磷酸及加里ハ之レガ缺乏ヲ告グルコト比較的少シ殊ニ加里ニアリテハ其施スト否トニ關セズ成育状態殆ンド同一ノ觀アリ、反應ノ如何ハ繼續年數ノ少キガ爲カ未ダ成績ノ斷ジ難キヲ以テ尙繼續確カムル所アラムトス

二、腐植質土壤三要素試験

府下船井部蒲生野ノ腐植質土壤ニ於テ石灰ヲ以テ中和セルモノト然ラザルモノトニ於ケル三要素試験ヲ比較セムトスルモノニシテ其結果ニヨレバ、石灰ヲ以テ中和セルモノハ其中和セザルモノニ比シ成育甚優レリ而シテ兩者共無磷酸區ハ最モ生育不良ニシテ殆ンド無肥料區ト異ナラズ加里及窒素ハ稍豊富ナリトス

三、腐植質土壤石灰適量試験

腐植質土壤ニ對スル石灰施用ノ効果並ニ其ノ適量ヲ知ラムトスルモノニシテ無石灰區、石灰及當三十貫匁加用、同五十貫匁加用同百貫匁加用、同二百貫匁加用、同三百貫匁加用、同四百貫匁加用、同五百貫匁加用、同六百貫匁加用ノ九區ヲ以テ試験セリ其成績ニヨレバ水稻ニ對シテハ石灰反當三十貫匁加用區最モ優リ五十貫匁加用區、百貫匁加用區之レニ次ギ二百貫匁以上ヲ施ス場合ニハ却ツテ其生育無石灰區ニ劣ルヲ見タリ

四、腐植質土壤石灰加用試験

腐植質土壤ニ對スル石灰施用ノ効果ヲ知ラムトスルモノニシテ石灰量ヲ種々ニ加用シ且數年ニ分施セシムルノ得失ヲ試験シタリ其結果ニヨレバ全酸度中和ニ要スル石灰ノ全量ノ三分ノ一量ヲ初年ニ加用セシモノ最モ良好ニシテ、同二分ノ一量ヲ初年ニ加用セシモノ之ニ次グリ、而シテ無石灰區ハ石灰加用區ヨリモ生育甚ダシク劣レリ

五、亞硫酸アンモニア肥効比較試験

亞硫酸アンモニアト硫酸アンモニアトノ稻作ニ對スル肥効ヲ比較セムトスルモノニシテ二種ノ肥料ニツキ多肥區並ニ少肥區ヲ設ケ、尙標準區トシテ無窒素區ヲ置キ試験セリ而シテ窒素ノ用量ハ多肥區ニ反當二貫匁少肥區ハ一貫匁トシ磷酸及加里ハ各反當五貫匁トス其成績ニヨレバ亞硫酸アンモニアノ肥効ハ硫酸アンモニアニ匹敵セリ

六、腐植質土壤燒土試驗(第一)

腐植質土壤ヲ燒土スル時ハ作物ノ生育ニ如何ナル影響ヲ及ボスヤヲ驗セムトスルモノニシテ燒土セザルモノ、攝氏七十度ニ燒土セシモノ、同百度ニ燒土セシモノ、同二百五十度ニ燒土セルモノ、四區ニ分チ秋蕎麥以テ試験セリ  
而シテ其結果ニヨレバ蕎麥ニアリテハ攝氏七十度ニ燒土セシモノ最モ良好ニシテ百度ニ燒土セシモ



ノ之ニ次ギ、焼土セザルモノ最モ劣レルヲ見タリ

腐植質土壤焼土試験(第二)

次ニ蕎麥收穫後二十日大根ヲ以テ焼土ノ効果如何ヲ試験セリ其成績又蕎麥ト大差ナク、七十度ニ焼土セシモノ最モ優リ百度ニ焼土セシモノ之ニ次ギ二百五十度ニ焼土セシモノハ焼土セザルモノヨリモ稍生育劣レルヲ見タリ

(六) ポット冬作

(大正二年度收穫)

一、三要素試験

目的並ニ設計夏作ト同ジク大麥ヲ以テ試験セリ其成績モ亦夏作ニ於ケルガ如ク窒素ハ供給充分ナラザルモ磷酸及加里ハ之レガ缺乏ヲ告グル事比較的少キガ如シ而シテ肥料ノ反應ハ大麥ニアリテハ塩基性配合ヲ最モ良トシ、中性ノモノ之ニ次ギ、酸性ノモノ最モ劣レルヲ見タリ

二、石灰窒素施用期試験

石灰窒素ハ大麥播種前何日位ニ施用スルヤヲ以テ尤モ可ナルヤヲ知ラムトスルモノニシテ播種當日施用、五日前施用、十日前施用、十五日前施用、二十日前施用ノ五區ニ分チテ試験セリ其成績ニヨレバ前年度ト同ジク十五日前施用區最モ優レリ二十日前施用區之ニ次ゲルヲ見タリ

三、腐植質土壤石灰加用試験

目的並ニ設計夏作ニ同ジク大麥ヲ以テ試験セリ其成績ニヨレバ大麥ニ於テハ水稻ト異ナリ酸度中和ニ要スベキ石灰全量ノ二分ノ一量ヲ初年ニ加用セシモノ最モ良好ニシテ無石灰區ハ生育甚ダ不良ニシテ出穂スルニ至ラザリキ

四、酸性土壤石灰加用試験

酸性土壤ニ對スル石灰ノ効果及其適量ヲ知ラムトスルモノニシテ府下葛野郡松尾村字下山田、第四紀古層埴土(酸性包水硅酸鹽ニ基因スル全酸度一〇五立方耗)ヲ以テ無石灰區、石灰反當二百貫匁(全酸度中和)加用、同反百貫匁加用、同反五十貫匁加用、同反四十貫匁加用、同反三十貫匁加用、同反二十貫匁加用、同反十貫匁加用ノ八區ヲ設ケ大麥ヲ以テ試験セリ其成績ニヨレバ無石灰區ハ生育不良ニシテ結實セズ反當二百貫匁加用區最モ優リ石灰加用量少ナキニ從ヒ生育劣ルヲ見ル

五、腐植質土壤三要素試験

目的並ニ設計夏作ニ同ジク大麥ヲ以テ試験セリ其成績モ亦夏作ト同ジク石灰ヲ加用セルモノハ加用セザルニ比シ生育一般ニ良ク兩者無磷酸區ハ最モ生育不良ニシテ、無肥料區ト共ニ枯死セリ加里及窒素ハヤ、豊富ナリ

六、亞硫酸アンモニア肥効比較試験

目的並ニ設計夏作ニ同ジク大麥ヲ以テ試験セリ其成績モ亦夏作ト同ジク亞硫酸アンモニアノ肥効ハ硫酸アンモニアニ匹敵セリ

(七) 委託試験

一、水稻委託試験從來試験ノ結果優良ト認メタル水稻品種ニ付左記九ヶ所ヲ撰定シ該地方ニ於テ廣ク栽培セラレツ、アル優良種ト同一栽培法ノ下ニ委託栽培セシメ其優劣ヲ判定シ以テ其地方品種選擇ノ指針トナシ併セテ栽培法ノ範ヲ示サントスルノ目的ニアリテ明治四十四年度ヨリ繼續施行セリ其結果漸次栽培法ニ改良セラル、ト同時ニ優良品種ノ交換希望者多數續出スルニ至レリ

早生	中生	晚生	種名	委託人住所氏名
ナシ	中生神力、關取、東京	雄町、岩佐、神力	雄町、國ノ光、天拜山	相樂郡加茂村字觀音寺 青 年 會
ナシ	福山、大和日ノ出、伊勢錦、 東京都雜中二號、中生神力	八重穗、萎縮不知、中生神力	北桑田郡弓削村	南桑田郡吉川村 美 馬 俵 吉
有岡	福山、伊勢錦、都、世直シ、 長者穗	雄町、中生神力、都、東京	船井郡須知町	北桑田郡弓削村 田 中 喜 次 郎
有岡、大場	萬倍、福山、大和錦、雜中 二號	中生神力、萎縮不知、雄町	何鹿郡東八田村	船井郡須知町 澤 田 吉 次 郎
大場	大島、狸々、日ノ口、伊勢 錦、雜中二號	八重穗、都、中生神力	天田郡農會	何鹿郡東八田村 辻 井 宗 兵 衛
信州金子、 大場	雜中二號、高砂、伊勢錦、 大和日ノ出	雄町、竹成、中生神力、龜 次、佐賀良	加佐郡中筋村	天田郡農會 農 事 試 驗 場
有岡	福山、伊勢錦、大和日ノ出、 箱崎	芋ノ福、中生神力	與謝郡上宮津村	加佐郡中筋村 郡農會農事試驗場
信州金子	早生神力、野村坊主、朝日、 蛭子、岡山、福山、四國坊主	芋ノ福、中生神力、竹成、 西方寺	竹野郡深田村	與謝郡上宮津村 農 會
大場、改良 石白	野村坊主、福山、朝日、雜 中二號		竹野郡深田村	竹野郡深田村 郡農會農事試驗場

以上ノ如クニシテ委託地ニ變更アリ試作品種ニ年々多少宛變更アリテ平均成績ヲ示ス能ハザルヲ遺憾トス

二、竹林自然枯病ニ關スル委託試驗

乙訓郡向日町及乙訓村ノ二ヶ所ニ於テ繼續施行セリ

(八) 養 鶏

名古屋古趾、白色レグホーン、横斑ブリモースロツク、黒色ミノルカ、黒色オーピントン、吐綬鶏等百五十餘羽ヲ飼育シ常ニ種卵トシテ希望者ニ配布シ雖二百餘羽ヲ孵化セシメ希望者ニ相當代價ヲ以テ目下配布シツ、アリ

(九) 病虫ニ關スル試驗

(大正元年度分ヲモ含ム)

一、麥類黑穗病ノ豫防試驗

麥類黑穗病ノ豫防ヲ研メントスルモノニシテ全部ヲ六區ニ區別シ各區ノ面積ヲ七坪半トシ左ノ區別ニ就テ之ヲ施行ス

區別	試驗別
第一區	無 豫 防
第二區	冷水温湯浸法
第三區	温湯浸法

- 第四區 「フォルマリン」1%液七時間浸漬
- 第五區 「フォルマリン」2%液三時間半浸漬
- 第六區 人糞二倍液浸漬

試験ノ成績ヲ見ルニ「フォルマリン」2%液浸漬區ヲ最良トス、之ニ亞グモノハ冷水温湯浸法ナリ然レドモ經濟的ノ關係ヨリ冷水温湯浸法ヲ以テ適當ナル方法ナリトス

二、麥ノ斑葉病ト播種期トノ關係試驗

麥ノ斑葉病ノ發生ガ其播種期ノ遲速ニヨリテ如何ニ左右セラル、カヲ知ラントスルモノニシテ全部ヲ五區ニ分チ各區ノ面積ヲ七坪半トシ左ノ區別ニ付テ之ヲ施行セリ

區別	播種期
第一區	十一月九日
第二區	十一月十九日
第三區	十一月二十九日
第四區	十二月九日
第五區	十二月十九日

試驗ノ成績ヲ以テ見ルニ播種期ノ遅ル、ニ從ヒ發病ノ程度多ク其適期ニ播種スルモノニ於テ最モ被害少シ、故ニ明ニ本病ノ豫防上播種期ニ重大ナル關係アルヲ知ル

三、前年發生ノ麥新病害豫防試驗

前年發生セシ麥ノ新病害(穗白髮狀ニ變ジ登熟セザルモノ)ニ就テノ試驗ナリシモ本年ハ發生セズ從ツテ効果ヲ知ルヲ得ズ

四、竹ノ自然枯病對肥料試驗

本試驗ハ明治四十三年十一月ヨリ實施シタルモノニシテ乙訓郡乙訓村ニ於テ實施ス總面積五畝ヲ十區ニ區別シ各區ヲ十五歩トシ左ノ區別ニ於テ之ヲ行フ

區別	試驗別
第一區	無肥料
第二區	普通肥料
第三區	窒素多量施與
第四區	同 上
第五區	磷酸多量施與
第六區	加里多量施與
第七區	石灰施與
第八區	苦土施與
第九區	二回斷根
第一〇區	四回斷根

本年迄ノ成績ヲ以テ見ルニ發病最モ甚ダシキハ磷酸多量施與區及四回斷根區、石灰施與區及苦土施與區ニシテ窒素多量施與區加里多量施與區ハ最モ良好ナリ、且無肥料區ハ罹病セルモノ少キモ其成育ノ狀況頗ル悪シク葉及幹ノ色著ク淡色ナルヲ見受ク

之ヲ要スルニ成熟結實ヲ促進セシムベキ方法ヲ探レバ本病ノ發生ヲシテ速カナラシムルモノ、如シ尙續行ス

五、胡瓜露菌病豫防試驗

胡瓜露菌病ヲ防除シ得ル完全ナル藥劑ヲ知ラントスルモノニシテ其試驗區別及方法左ノ如シ

區別	試驗別	試驗別
第一區	無豫防	五回撒布
第二區	三斗式石灰「ボルドー」液	四回撒布
第三區	三斗式石灰「ボルドー」液	四回撒布
第四區	二斗五升式石灰「ボルドー」液	四回撒布
第五區	濃厚石灰硫黃合劑五十倍液	同
第六區	同 八十倍	同
第七區	同 百倍	同
第八區	硫黃華	同
第九區	「セラチン」加用硫黃華	同

試驗成績ニヨルニ第二三四及第七區ハ其成績同程度ニ良好ニシテ第五六區ハ少シク作物ヲ損傷ス第八及九兩區ニ至リテハ其効果極メテ微々タルモノニテ殆ド其效ヲ認ムルヲ得ズ、故ニ三斗式石灰「ボルドー」液ナレバ四五回ニ斗五升式液ナレバ四回ニテ十分ノ効果アリ濃厚石灰硫黃合劑ナレバ九十倍乃至百倍ヲ使用スルヲ以テ十分ナリトス

六、馬鈴薯疫病豫防驅除試驗  
本試驗ハ害虫ノタメ大半喰害セラレタレバ一回藥劑撒布後之ヲ行フヲ得ズ從ツテ效果ヲ知ル事能ハザリキ

七、稻熱病豫防驅除試驗  
稻熱病ノ防除ニ適當ナル藥劑ヲ知ラントスルモノニシテ其試驗區別及成績摘要次ノ如シ

第一區	曹達「ボルドー」液	五回撒布
第二區	「アンモニヤボルドー」液	同上
第三區	砂糖「ボルドー」液	同上
第四區	二斗五升式石灰「ボルドー」液	同上
第五區	濃厚石灰硫黃合劑百倍液	同上
第六區	同上 五十倍液	同上
第七區	同上 百二十倍液	同上
第八區	硫酸鐵石灰液	同上
第九區	無豫防	同上
第一〇區	二斗五升式石灰「ボルドー」液開花期撒布	

以上ノ成績ヲ見ルニ砂糖「ボルドー」液ヲ第一位トシ之ニ亞グモノハ濃厚石灰硫黃合劑百倍及百二十倍液トス、他ノ藥品ニ至リテハ其粘着力ノ弱キタメ効力充分ナラズ第六區ハ多少葉ヲ損傷セシムルノ傾アリ、第九區ハ發病ノタメ其大半ヲ枯死セシメ、第十區ハ藥劑ノタメ結實セザルモノ多ク又往々結實スルモ不完全ニシテ表面ニ褐色ノ斑點ヲ生ジタリ、サレバ稻熱病ハ砂糖「ボルドー」ニヨリ之ヲ豫防シ得ベシト信ズ

八、寺田李新病害試驗  
數年來寺田李ニ一種ノ病害發生シタメニ其收量ノ如キ年々減少シ遂ニ昔日ノ始生産ヲ見ルヲ得ズシテ該果本場ナル寺田村ニ於テハ之ガ栽培ヲ斷念シ伐採シテ他ノ果樹ヲ栽培スルガ如キ悲境ニ陥レリ故ニ之ガ救助策ヲ施サントシ試驗ヲ行フ

一、原因深究試驗 大正元年病果ヨリ六種ノ細菌ヲ分離シ之ヲ培養ス

- 二、接種試験 前年分離セシ細菌ヲ李果ニ接種シ袋ヲ以テ之ヲ被フ
- 三、袋掛試験 果ニ袋掛ヲ行フ
- 四、藥劑撒布試験 石灰硫黃合劑撒布  
以上ノ試験成績ヲ摘要スルニ接種區ニ於テモ袋掛區ニ於テモ藥劑撒布區ニ於テモ共ニ發病シ或ハ發病セザルモノアリテ本病原ハ未ダ判然ト知ルヲ得ズ尙續行ス
- 九、マスクメロン莖腐病試験  
桃山分場メロン室ニ發生シ大害ヲナシタルモノニシテ一種ノ微菌ヲ分離ス、之ニ付キ續行試驗セントス
- 十、葱ノ腐敗病調査  
近來發生シ大害ヲ與フル本病ノ分布及被害程度ヲ調査セシニ其分布廣ク且被害大ナルヲ發見セリ尙本試験ハ續行セントス
- 十一、葉菜類病害調査  
京都市附近ニ於ケル葉菜類病害ノ分布種類ヲ調査セシニ白斑病及黑斑病最モ多シ本病ニ就テノ試験ハ續行ス
- 十二、竹ノ病虫害調査  
竹病害及虫害ハ未ダ廣ク調査セラレズ從ツテ之ガ救助法ノ發見セラレタルモノアルヲ見ズ、本調査ハ之ノ試験豫備トシテ行フ
- 一、自然 枯病 (開花病)
- 二、水 枯病 (立枯病又葉枯病)

- 三、黑 穗 病
- 四、天 狗 巢 病 (蔓自然枯病)
- 五、竹 蓐 病 (赤衣)
- ニシテ殊ニ前二者ニハ當業者ノ甚ダシク苦メル所ナリ、又虫害トシテハ
- 一、ハチマクチャバ (筍ヲ浸ス)
- 二、天 牛 (方言ガツト虫ト稱シ幹ヲ穿孔ス)
- 三、毛 虫
- 等最モ大ナリ
- 十三、栗樹病虫害調査  
未ダ廣ク知ラレタルモノハ二三種ニ止マル、之ガ調査ハ連續施行ス
- 十四、茶樹病虫害調査  
本府下ニ於ケル病虫害ニ付キ調査ス
- 十五、標本採集  
大正二年度末迄ニ採收セシ病虫害標本數左ノ如シ
- 病 害 標 本 百二十種
- 害 虫 標 本 五十一種
- 十六、二化螟虫ニ關スル調査  
次ノ調査ヲ行フ
- 一、發蛾時期調査
- 二、加害時期調査

- 十七、越冬状況調査
- 一、二 化 螟 虫
  - 二、ウ ス バ ツ バ メ
  - 三、蘿 蔔 鋸 蜂
  - 四、桑 ゴ マ ダ ラ
  - 五、夜 盜 虫
  - 六、蘿 蔔 蚜 虫

桃山分場ノ部

(一) 果樹ノ部

果樹ニ關スル諸試験ハ繼續ノモノニシテ今夏ノ激烈ナル旱害ノ爲メ一般ニ其影響ヲ受ケシ事少ナカラズ從テ結果ノ減少ト樹木ノ發育稍ヤ不良ナリシ今各試験ニ對スル概要ヲ示セバ

一、品種比較試験

梨。昨年ノ狀況ト大同小異ニシテ長十郎梨、早生赤龍梨ヲ最良トシ赤龍ノ如キハ貯藏スルモ價格廉ナルヲ以テ經濟上不利益ナリトス今重要ナル品種ノ收量ヲ摘記スレバ

品 種 名	採 集 期 間	平均一本收量		反當收量		備 考
		個 數	重 量	個 數	重 量	
赤 穂	自 九月六日 至 九月二十八日	六三	三、〇二七	三、七二五	二二七、二〇〇	下等品ヲ除ク以下同之
長 十 郎	自 八月二十四日 至 九月十六日	七五	四、八八〇	五、六二五	三六六、〇〇〇	
早 生 赤	自 九月六日 至 九月二十八日	四〇	四、二七〇	三、〇〇〇	三三〇、二一〇	
赤 龍	自 九月六日 至 十月二十三日	二九	三、〇三三	二、一七一	〇〇〇、七三〇	

ノ如ク一般ニ收量少ナキモ殊ニ幸藏、明月ニ於テ然リトス

桃。昨年ノ報告ト畧ボ同様ニシテ早熟ノ害ハ多少受ケシト雖モ早熟種可成リ成育シテ左ノ收量ヲ得タリ

品 種 名	採 集 期 間	平均一本收量		反當收量		備 考
		個 數	重 量	個 數	重 量	
アムスデンジューン	自六月二十九日 至七月十三日	二二五	四、二九六	三三二、二〇〇	三三二、二〇〇	下等品ヲ除ク以下同之
ブリウクスメー	自六月二十四日 至七月十五日	二〇一	三、四八四	一五〇、七五	二六一、三〇〇	
天 津	自七月十五日 至七月二十五日	四八	一、四四三	三、六〇〇	一〇八、二二五	
谷 五 郎	自七月二十七日 至八月二日	九七	一、四四三	七、二七五	一〇八、一五〇	
アーリーリヴァース	自七月十六日 至七月二十六日	二七〇	四、七一八	二〇、五五〇	三五三、八五〇	
上 海	自八月二十一日 至八月二十七日	八二	二、七二三	六、一五〇	二〇三、四七五	

アムスデンジューン、ブリウクスメーノ如キモ普通當業者ノ栽培セルガ如ク結實セシメズ摘果ハ袋掛ケナ行ヒ稍熟期ヲ遅延セシムレバ大果ニシテ外觀美價格高價ニ販賣シ得ルヲ以テ得策ナリトス  
前表ニブリウクスメーノ收量劣レルハ病木ヲ生ゼシ爲メニシテ概シテ收量多キ種類ナリトス、アーリーリバーハ前年同様中果ヲ産スルヲ以テ常ニ優利ナリトス、谷五郎桃ハ和種トシテ最モ優品ナルモ果形小ナルト病害ニ罹リ易キ缺點アリトス、天津水蜜桃ハ耐久種トシテ市場ニ貴バレシモ今日ハ市況常ニ劣ルニ至レリ、上海水蜜桃ハ落果多キノミズナラ胴枯病ニ罹リ易キヲ以テ大イニ注意ヲ

要スベシ以上ニヨリ最モ有望ナルハアムスデンジューン、ブリウクスメー、アーリーリバーノ三種ニシテ昨年ニ於ケル京都市況ヲ早中晩ニヨリ參考ニ示サン  
但シ容器ハ石油空箱三ツ切ニシテ各平均ナリ

品 種 名	特 等		上 等		中 等	
	個 數	價 格	個 數	價 格	個 數	價 格
アムスデンジューン	七〇	七〇	八七	五〇	九六	三五
アーリーリバー	三九	七〇	七六	六〇	八八	四五
上 海					五〇	六〇

李。昨年報告モルト大同小異ナルモ鹿兒島産桃、櫻島李、市成李ハ販路充分ナラザルヲ以テ之レヲ廢止スルニ至レリ、寺田李ハ品質優良ナルモ炭疽病(?)害激シキヲ以テ之レガ研究ニ充當スルニ至レリ、獨リゴールデングリーンケージハ年々結實シ販路多キモ害虫ニ犯サレ易キトモニヤ病ニ罹リ易キハ此種ノ缺點ナリトス

櫻桃。年々共ニ結實多ク有望ナルモモニヤ病防止意ノ如クナラザルハ本業ノ爲メ誠ニ残念ナリトス  
本年ハナボレタンヒカルロー、ベルトシヤトネー、ヒカルロー、ウルタルジ(ト稱セルモノナレドモ異種ニシテ早生ナリ)等ハ結果多ク其他ブラツタタータリアン、アングレース、アーチフカバナード等結實セリ

葡萄病害豫防ノタメ硫酸鐵ボルド液ノ數回ノ散布ハ能ク其効ヲ奏シ各種病害ヲ豫防シ得テ一般ニ良好ノ成績ヲ收得セリ、當場ニ於ケル硫酸鐵ボルド液ノ散布ハ曇天又ハ降雨ノ前(殊ニ蒸シ暑クシテ病菌ノ發生ニ最適ノ時)ニ散布シテ有効ナリトス

品種、カタウバーハ市價低廉ナルモ樹勢強健豐産ニシテ病害ニ堪ユル力強キト栽培ノ方法ニヨリ其ノ奇臭ヲ少ナカラシメ得ルヲ以テ今日ノ状態ニ於テハ經濟上優種ナリトス、フライトンハ豐産ニシテ優良種ナルモ果皮薄キヲ以テ遠キ輸送ニ堪ヘ難キ缺點アリトス、ハーバート、他花交配ニ關係スル事大ナルモ大體ニ豐産種ニシテ黒色大粒外觀品位共ニ宜敷キ以テ市價常ニ高ク有望種ナリトス、レデーワシントンハ一般市況不良ニシテブラックハンブルグ、ゴールデンチャンピオンハフヒロキセラノ被害ニヨリ成熟不良ナリシモ本年三回二硫化炭素ヲ注入セシニ稍ヤ其効ヲ奏シ成熟昨年ニ比シ特ニ佳良ナリシ、オセロハ豐産ナルモ全ク晩熟ニ失シ成熟不良ナリトス、カールマン種ハ病害ノ爲メニ廢絶セシムルノ止ムヲ得ザルニ至レリ

今主要ナル品種ノ收量ヲ示セバ

品 種 名	採 集 期 間	平均一本收量 個 數 重 量	反 當 收 量 個 數 重 量
レデーワシントン	自 九月十六日 至 十月二十六日	一二二 二、九三〇	八、四〇〇 二一九、七五〇
ブラックハンブルグ	自 十月四日 至 十二月九日	二九 一、一九〇	三七五 八九、二五〇
ブライトン	自 八月二十六日 至 十月十八日	二二八 六、一五〇	一七、一〇〇 四六一、二〇〇
ハーバート	自 八月二十三日 至 十月二十三日	三二六 九、四二二	二四、四五〇 七〇六、六〇〇
カタウバー	自 八月十五日 至 九月二十三日	二四四 六、六〇〇	一八、三〇〇 四九五、〇〇〇

柿。務メテ冬期剪定ニ注意セル結果漸ク目的ノ樹形ニ達シタルモノ多ク隔年結實見タルコト少シ果實ノ袋掛ハ成績良好ナレバ尤モ注意スベキ行事トナス  
今主要四品種ノ收量ヲ表記スレバ次ノ如シ

品 種 名	採 集 期 間	平均一本收量 個 數 重 量	反 當 收 量 個 數 重 量
富 有	自 十一月六日 至 十一月十五日	六五 二、五二〇	四、八七五 一八九、〇〇〇
天 神 御 所	自 十一月十八日 至 十一月二十五日	五六 二、六一〇	四、二〇〇 一九六、五〇〇
金 月	自 十月四日 至 十月二十五日	六一 二、八〇二	四、五七五 二一〇、一五〇
正 月	自 十月二十五日 至 十月二十五日	二〇 一、一〇五	一、五〇〇 八二、八八〇

天神御所柿ハ早生甘種トシテ色澤品位共ニ宜シク富有柿ハ是レニ次デ甘味濃厚ニシテ常ニ多産加モ充分呈色セザルニ已ニ脱落セルハ此ノ品種ノ愛スベキ特徴ト云フベク、正月柿ハ晩熟ノ甘種トシテ久シク樹上ニ保ツベク金月柿ハ熟柿用トシテ品位劣ラザルヲ見ル而シテ柿樹ノ整枝剪定法ハ栽培上ノ重要問題タルヲ以テ引キ續キ研究セン

二、品種見本試験

梨。立木作りニシテ株間一間半四方ナリシモ各樹枝互ニ相接シ狹隘トナリシヲ以テ今春各二間ニ移植ヲ行ヒタルト夏期非常ノ早魁ナリシタメ結實少ナカリシモ花芽着生ハ極メテ多シ、各品種ハ昨年報告セルト同様ニシテ本年ヨリ新品種市原早生梨及チャンピオンヲ栽植セリ



桃。本年栽植セルモノト共ニ一四品種ニシテ早生種中ニユーホール(ト稱スルモノ)ハ魁王ト同一品ニシテ採集期ヲ手加減スル時ハ相當ノ良果ヲ産ス之レ數年前ト稍異ナル狀ヲ呈シ早生桃トシテ捨ツベカラザルナリ之レニ次ギテスニード、ランヨンスクリング種アリ、スニードハ品質宜シカラズ、成熟期ニ落果多キハ餘リ有望ナラザルナリ、ランヨンスクリングハ果モ稍大ク豊産ニシテ良種ナリトス此他昨年報告セル品種ノ外久邇宮桃(久邇宮殿下御下賜苗)ハ果大ニシテ品質宜シク前途有望ナリトス尙上海水蜜桃以後ニ於テ成熟スル桃ニ良品種アリト雖モ京都市場ニ於テハ價格非常ニ安キノミナラズ害虫ニ犯サル、事多キヲ以テ栽培上特ニ注意ヲ要ス

黄肉桃種ハ尙一般ニ色澤ノ習慣的關係ニヨリ價格安クシテ需要多カラザルナリ

左ノ品種ハモニリヤ又ハ胴枯病ニ犯サレ易キヲ以テ栽培上留意スベキ種トス

最モ犯サレ易キ種類 ベルオブゼオルシヤ、ブルンソンス、レモンクリング、上海水蜜桃

感染シ易キ種類 ブリツクスメー、カルマン、ビクトリス、天津水蜜桃

今主要優良品種ノ收量ヲ表記スレバ次ノ如シ

品 種 名	採 集 期 間	平均一本收量		反當ノ收量		備 考
		個 數	重 量	個 數	重 量	
ス ニ ー ド	自 六月十九日 至 六月二十四日	二二五	三、四九〇	一六一、二六	二六一、七五〇	下等品ヲ除ク以下同之
ランヨンスクリング	自 六月十九日 至 六月二十四日	一八四	二、九〇二	一三八、〇〇〇	二一七、六五〇	
コンネツクアーリー	自 七月十四日 至 七月三十一日	八九	二、四八一	六、六七五	一八六、〇七五	
シモーメーカー	自 七月八日 至 七月八日	二五五	五、一一〇	一九、四二五	三八三、二五〇	

ジューククリング	自 九月十八日 至 九月二十八日	七四	三、〇一五	五、五五〇	二二六、一二五
アドミラルドウェイ	自 七月八日 至 七月二十四日	二三七	四、三三〇	一七、七七五	三二四、七五〇
エルバルタ	自 八月二十三日 至 九月八日	一二五	四、四一〇	九、三七五	三三〇、七五〇

苹果。本年結果セルモノニ付キ見ルニ瑞穂玉種ハ豊産ニ果モ又大果ニシテ肉質締リ貯力アリテ良品トス其他ノモノハ尙調査ノ要アリ

枇杷。昨年報告セル如ク採集期ニ就キ注意セルニ引續キ甘味ニシテ頗ル良品ヲ産シ需用多シサレドモ冬期寒風ノ爲メニ果頭ニ擦傷ヲ生ジ外観極メテ不良ナルヲ以テ花謝スルト同時ニ袋掛ケヲ行ナフヲ要サレバ其被害極メテ少ク良品ヲ産ス

柑橘。當分場ハ之レガ栽培ニ不適ト稱スベキモ夏橙ハ年々結實多キモ冬期寒害ノ爲メ落果スルモノ殆ンド九分以上ニ達シ尙ホ果汁缺乏シ見込アラザルモ本年度十二月新聞紙ヲ以テ袋掛ケヲ行ヒ冬期液肥ヲ一回施用セルニ依リ果ヲ樹木ニ保チ果汁ヲ充分多ク保持シ得品質又頗ル上等ナルモノヲ得タリ、之レ此種寒地栽培上頗ル有望ナル成績ナリトス

其他櫻桃李杏柿葡萄ハ前年報告セシト大同小異ナルヲ以テ畧ス

三、肥料試験

和梨肥料試験ハ供試種類長十郎梨ニシテ十區ニ別チ試験セルニ磷酸施用ハ甘味ニシテ肉質可ナルモ只果稍少ナルノ傾アルモノ、如ク加里、石灰ヲ特ニ加用セルモノハ味優秀ニシテ果モ又大ナルモノ、如シ尙之レニ關シテハ調査研究ヲ要ス

高等栽培

葡萄ノ室内栽培ハ漸次良成蹟ヲ示シマドレスファイルドコートハ外觀及果共ニ供良ニシテ豊産、フオスターシードリングハ白色種ノ早生ニシテ豊産良品ナリトス、此他グロークールマン種モ良種ナルモ只果ノ裂シ易キ缺點アリトス

果樹ノ病蟲害  
冬期ニ於ケル藥劑トシテ石灰硫黃合劑ニ關シ其ノ効果著シク其利用年々増加セリ本年度ニ於テ從來ノ稀薄式製法ヲ改メ濃厚式製法ヲ示スト共ニ藥劑ノ主要原料タル硫黃華ニ代フルニ價格約半價ナル硫黃粉末ヲ以テセルニ從前ニ比シ一層便ニシテ經濟ナルヲ以テ一般ニ其利用激増セリ之レ當場ノ他府縣ニ比シ一部改良ヲ進メシ點ナリトス

四、果樹病害試驗區

梨赤星病石灰ボルドー合劑ハ梨病害豫防上有効ナレ共動モスレバ幼果ニ汚班ヲ生ズル等ノ缺點アルヲ以テ之レニ代フルニ石灰硫黃合劑及ビ、ルリ液ノ効驗ヲ調査セシニ充分判然セザルモ、ルリ液ノ方可ナルモノ、如シ夏期ニ於ケル石灰硫黃合劑ニ就テハ尙研究ヲ要ス  
寺田李病害 主トシテ俗ニ稱スル日燒病(炭疽病?)ニ對シ有効ナル豫防ノ方法ヲ研究センガ爲メ七區ニ別チ實施セルモ判然セズ從テ尙之レガ研究ヲ要ス

竹品種見本

一般ニ生育旺盛ニシテ互ニ根株相混入シ不便尠カラザルヲ以テ大正三年三月大距離ニ植替エテ行ヒタリ而シテ丹波班竹ノ如キハ本年始メテ班紋ヲ呈出スルニ至レリ

(二) 蔬菜ノ部

本年度試驗事項ハ昨年ニ比シ數項ヲ増加施行セリ、而シテ主要試驗ノ概要ヲ示セバ

一、品種比較試驗

大根。本試驗ハ從來ノ供試種類ニ加除ヲ行ヒ、聖護院大根、島大根、九日大根、早生美濃九日大根ノ四品種ニシテ聖護院大根ヲ除キ他三品種ハ諸レモ早ク作出シ市場ニ於ケル需用ニ應ゼントスルニ何レノ種類ヲ以テスベキヤニ就キ試ミシニ島大根ハ收量多ク品質佳良ナルモ產出期稍遅ク早生美濃九日大根發育非常ニ早キモ收量少ナク寧ロ九日大根ハ稍遅ル、モ其間大差ナキヲ以テ此種有利ナルモノ、如シ尙尙ヲ重ネ試ムルノ要アリ、其收量ヲ示セバ

島大根千二百貫、九日大根九百九十貫、早生美濃九日大根九百十貫ナリトス  
苜蓿類。本試驗ニ供セルハ體菜外九品種ニシテ收量ハ常ニ體菜ヲ以テ最上位トシ且ツ栽培シ易ク需要多シ其他白菜類ニ在リテハ結球ハ縮緬白菜、直隸白菜、芝罘白菜、朝鮮白菜等歩合多キモ收量多キハ寧ロ從來ノ山東白菜ナリトス而シテ體菜ノ如キハ之レヲ可成早ク下種シ秋冬ニ於テ二回以上ヲ作出スルヲ有利ナリトス

葱。千住、九條、淺黃、根深太葱ノ四品種ヲ以テ深ク軟白セルモノニシテ年々ノ成績ハ常ニ九條葱收量多ク味可ニシテ他品ニ優レリ次ギニ根深、太葱ヲ以テ有望種トス  
馬鈴薯。前年ニ引キ繼ケル試驗ニシテ其成績モ又殆ンド同様ナルモシカゴマーケット、アーリー、ピヤウター、オプベブロン、サウザルンスター、ガフイーールドノ順次ニシテ以上ハ共ニ病害ニ堪ユル力稍強キモノ、如シ

里芋。前年ト同一品種ヲ以テセルニ畧ボ同様ノ成績ヲ示セルモ大阪市場ニ於ケル八ッ頭ノ市況數年前來ノ如クアラザルハ今後注目スベキ點ナリトス

二、里芋ノ大小ト收量ノ關係試驗  
供試品種八ッ頭種ヲ以テ種芋ノ大中小ト芽ヲ損セルモノトノ四區ニ別チ試驗セルニ矢張り種芋ノ大

形ノモノ收量最モ多ク中形、小形トハ順次ニシテ芽ヲ損セルモノ最モ少シ之レ發芽ニ最モ困難ニシテ其脇ヨリ新芽ヲ發シ得ルモノ、ミ成育セリ、故ニ種芋ハ大ニシテ芽ノ極メテ善良ナルモノヲ用ユルコト必要ナリトス

三、里芋堆肥施用量試驗

當場ノ如キ島地ニ於テハ堆肥ノ施用量ノ其ノ收量ニ及ボス状態ヲ知ラントシテカワラ芋ヲ以テ左ノ七區ニ別チ試驗セルニ表ノ示ス如ク其ノ量ノ多ヲ以テ増量ヲ示セリ、之レ當地ノ如キハ大イニ注意スベキモノナリトス

區	別	堆肥量	(反當收量)
第一區	第一區	三〇〇	四〇〇
第二區	第二區	五〇〇	四二〇
第三區	第三區	七〇〇	五〇〇
第四區	第四區	九〇〇	五八〇
第五區	第五區	一、〇〇〇	五五〇
第六區	第六區	一、三〇〇	六〇〇
第七區	第七區	一、五〇〇	六六〇

四、馬鈴薯莖本數試驗

白種ヲ以テ一塊莖ヨリ發生スル莖數ヲ左ノ本數ニ減定シ其收量如何ヲ試ミタルニ其成績次ノ如シ

區	別	莖數	一反步當收量
第一區	第一區	一	一八七
第二區	第二區	二	二八五
第三區	第三區	三	三三〇

此他南瓜甘藍菜豆ノ品種比較試驗、大根、菜豆ノ播種期試驗等アルモ前年ト同成績ナルヲ以テ畧ス

五、高等栽培 マスクメロン  
硝子室ニ栽培セルニ前年ニ比スルニ病害稍少ク普通作ヲ得相等ノ成績ヲ得タリ只屋根ヲ硝子障子ヲ以テシ外圍ヲ寒冷紗ニテ張レルモノ及温床框ヲ用ヒシモノ、其ノ香味ニ於テ大イニ劣レリ就中温床框ノモノ殊ニ甚ダシカリキ

(三) 花卉ノ部

温室及露地ニ於テ數十種ヲ栽培セルニ切花用トシテ、エキシヤ、グラジオラス、ズヤスターデーシー等  
佳良ニシテ鉢物トシテ、シネラリヤ、グロキシニヤ等ヲ最良トス其他ノ花卉ニ至リテハ良品アルモ尙試驗ヲ要ス

綾部分場

(一) 蔬菜ニ關スル試験

一、甘藍品種試験

從來ノ試験成績ニ基キ優良品種八種ニ付キ其ノ性狀收量品質ノ良否ヲ比較對照セシニ收量多キハ早生ニテ「アーリーゼル」シトウ井「クファイルド」中生種ニテ「アーリーサンマー」晩生種ニテ「バービース」シユハーヘッド「サクセツション」等概シテ收量品質共ニ良好ナルハ中生種多ク早生種ハ採收ノ時期恰カモ霖雨期ニ當ルヲ以テ裂傷ヲ生ジ易キ弊アリ晩生種中「バービース」シユハーヘッド「ヲ除クノ外」オータムキング「バンドコー」ノ如キハ其形狀大キク收量又少ナカラズト雖モ結球歩合少ナキヤノ嫌アリ

二、甘藍肥料試験

甘藍ニ要スル三成分ノ適量ヲ知ラントスルモノニシ左ノ方法ニヨリ此ヲ行ヘリ

區名	窒素	磷	酸	加里
第一區 標準區	六・二八九		三・一五三	五・九二二
第二區 窒素加給區	八・三〇四		三・一五三	五・九二二
第三區 磷酸加給區	六・二八九		四・〇九三	五・九二二
第四區 加里加給區	六・二八九		三・一五三	七・六九九

窒素加給ノ爲ニ智利硝石ヲ磷酸加給ノタメニ過磷酸石灰ヲ加里加給ノタメニ木灰ヲ使用セリ  
右ノ成績ニヨリ收量最多キハ窒素加給區ノ反當改算一四一五貫ニシテ次ハ標準區ナリ加里加給區ハ  
收量最モ劣レリ

三、甘藍人尿尿用量試驗

而シテ窒素加給區ハ採收期遅レ加里加給區ハ之ニ反シ採收期早キガ如シ  
本試驗ノ目的ハ葉菜類ノ肥料トシテ重用セラレ、人糞尿ノ甘藍ニ於ケル適量ヲ見出サントスルモノ  
ナリ、即チ

堆肥三〇〇貫、過磷酸石灰六貫、木灰九貫ヲ各區共通ニ施用シ

第一區ニ 人糞尿 三〇〇貫

第二區ニ 六〇〇貫

第三區ニ 九〇〇貫

第四區ニ 同 一二〇〇貫ヲ各加用シタリ

右試驗成績ニヨレバ第四區ノ收量反當リ一五一貫餘ニシテ主位ヲ占メ次ハ第三區ニシテ最モ少キ  
ハ第一區ノ六六九貫餘ナリシ  
而シテ第一區成熟期ハ他區ニ比シ二日早ク第四區ハ僅カニ腐敗病ノ被害ヲ受ケタリ

四、葱頭品種試驗

供試品種六

收量最多キハ「レットウヰンガー」ニシテ「シルバークローブ」之ニ次ギ「ゴールデンクロ  
ーブ」ノ收量最モ劣レリ  
而シテ市場ニ於テハ「ゴールデンクローブ」ハ賣レ行キ良シク「シルバークローブ」ハ其色白キノ故ヲ

五、夏大根播種期試驗

以テ當地ニ於テハ賞用セラレザルノ傾向ヲ示セリ  
本試驗ノ目的ハ夏季用大根ノ適當ナル播種期ヲ知ラントスルモノニシテ夏大根及時無大根ノ二品種  
ヲ供用シタリ

第一區ハ三月二十五日播

第二區ハ四月十日播

第三區ハ四月二十五日播ノ三方法ヲ取り施行シタリ

右成績ニヨレバ夏大根ニ於テハ第一區收量最モ多ク第三區第二區ノ順位ヲ示セリ

時無大根ニ於テハ第三區主位ニシテ(反當リ千四百五十八貫)

第二區第一區ト順次劣レリ

六、蠶豆品種試驗

供試品種六種

一寸蠶豆最モ收量多ク「アーリーグリーン」此ニ次ギ於多福早生蠶豆、「ジヤイアントレセベルロン  
グボット」在來種ノ順次ナリ

一寸蠶豆ハ大粒ナルヲ以テ「アーリーグリーン」ハ早生種ノ豐産ナルヲ以テ其ニ優良ノ品種タルヲ失  
ハズ

七、葱取扱法試驗

淺葱用九條種ニ就キ定植前ノ苗ニ左ノ方法ヲ取り其何レガ良好ノ結果ヲ示スヤヲ試ミタリ

第一區 苗ヲ床ヨリ掘取り直ニ定植セルモノ

第二區 同葉先及根先ヲ切斷シ定植セルモノ

- 第三區 同一週間乾燥シ後定植セルモノ
- 第四區 同二週間同上
- 第五區 同三週間同上
- 第六區 同五週間同上

右試験ノ結果收量最多キハ第四區ノ二週間乾燥ニシテ常反九二四貫餘、次ハ其儘ニ定植セルモノ、一週間乾燥ノモノ三週間乾燥ノモノ、根葉切斷ノモノ、順位ニシテ五週間乾燥區最モ劣レリ又澁病ニ對スル抵抗力ハ其ノ儘定植區最モ弱ク根及葉ヲ切斷シ定植セルモノ此ニ次ギ其他ハ殆ド強健ナリキ、而シテ其分蘗力ニ就テ觀ルニ一週間乾燥セルモノ及其儘定植セルモノ二、一倍乃至二、三倍ナルニ反シ三週間及五週間乾燥セルモノ二、五乃至二、八倍ノ本數ヲ増加セル事實ハ注意スベキ點ナルベシ

今若シ當場ニシテ積雪ノ患ナク肥培ノ効モ又顯著ナルニ於テハ或ハ此ノ分蘗力強大ナル第六區等最上ノ成績ヲ示スニ至ル哉ハカリ難シ

八、菜菔品種試験

供試品種十二種  
收量最モ多キハ聖護院、鞍馬口、練馬丸尻ニシテ練馬尖、美濃早生、島大根、栗田、宮島、德利、方領、吉田ト順次其收量減少ヲ示セリ  
聖護院ハ收量多キノミナラズ煮食用トシテ品質又優良ナリ、漬物用トシテハ練馬丸大根ハ收量品質共ニ優リ栗田(與謝郡栗田村)  
島大根モ亦有望ナル品種タルヲ失ハズ殊ニ朝漬用トシテ其形ノ細キト質ノ軟ナルトニヨリ甚適當ナル品種タルモノ、如シ

九、薑品種試験

供試品種三種ニシテ旱魃(近年稀ナル)ノタメ充分ナル生育ヲ遂ゲザリシモ金時種收量最モ多ク市場ノ評價又在來種ノ右ニ出デ大薑ハ市場ノ評三種中冠タルモ惜キ哉收量ノ點ニオイテハ金時ニ一步ヲ讓レリ

十、薯蕷品種試験

在來種ハ收量及市價共ニ劣等ナル成績ヲ示セリ  
供試品種ハ四ニシテ大和薯收量最モ多ク公孫樹之ニ次ギ黑種伊勢ノ順ヲ示セリ

十一、里芋品種試験

供試品種ハ八種ニシテ收量最モ多キハ東京早生芋ニシテ芋蕨、土垂芋、熊野芋ハ之ニ次ギ收量最モ少キハ今福唐ノ芋ナリシ

十二、甘藷插植期試験

本試験ノ目的ハ插植期ガ其收量品質ニ及ボス結果ヲ知ラントスルモノニシテ左ノ方法ニヨリ施行セリ

- 第一區 五月一日插植
  - 第二區 五月十日同上
  - 第三區 五月二十日同上
  - 第四區 五月三十日同上
  - 第五區 六月十日同上
  - 第六區 六月二十日同上
- 右ノ成績ニヨレバ第四區最モ收量多ク第五區、第二區、第一區ノ順位ニ收量劣レリ尙第一區ハ堀取

ニ不便ヲ感ジタリ

注意スベキハ豫定ノ插植日恰モ雨天ニ際會セルモノハ爲ニ發育不良ニシテ從ツテ品質モ劣等ナルノ傾アルガ如シ依ツテ本試驗ハ年ヲ重ネテ試驗スルノ必要ヲ感ズ

十三、菜豆品種試驗

供試品種

從前ノ成績ニ徴シテ優良ナル品種六種ヲ選擇セリ就中收量多キハ茶千成第一位ヲ占メ「アーリーコボレート」トジユ「モントール」(黃色莢)「ホールドホーム」ステット「大王」菜豆白八ツ房ノ順位ニシテ品質ノ點ニオイテモ「アーリー」コボレート「ジュ」モントール「茶千成」ハ良好ナリ

十四、蕪菁品種試驗

供試品種ハ九種ニシテ收量多キハ天王寺、聖護院ニシテ近江、湖南、綱ノ濱、東京大蕪菁、波路ノ順ニ漸減シ札幌ハ收量最モ少カリキ

十五、蕪菁播種期試驗

本試驗ノ目的ハ其播種ノ適期ヲ知ラントスルモノニシテ其方法左ノ如シ

- 第一區 八月二十日播
- 第二區 八月三十日播
- 第三區 九月十日播
- 第四區 九月二十日播
- 第五區 九月三十日播

其成績ヲ見ルニ第四區收量最モ多ク第五區、第三區、第二區ノ順ヲ以テ收量漸減セリ早播區ノ成績不良ノ原因ハ害虫、(セスジトビムシ)ノ被害ニアルモノ、如シ

十六、蕪菁料肥試驗

本試驗ハ適當ナル三要素量ヲ知ラントスルモノニシテ

區	名	窒	素	磷	酸	加	里
第一區	普通肥料區		五・三〇九		三・九六三		四・三〇四
第二區	窒素加給區		六・二二三		三・九六三		四・三〇四
第三區	磷酸加給區		五・三〇九		四・九五三		四・三〇四
第四區	加里加給區		五・三〇九		三・九六三		五・一三四
第五區	三要素加給區		六・二二三		四・九五三		五・一〇四

右ノ成績ニヨレバ磷酸加給區收量最モ多ク三要素加給區之ニ次ギ標準區(第一區)收量最モ少カリキ

十七、秋大根播種期試驗

秋大根ノ適當ナル播種期ヲ見出サントスルモノニシテ左ノ方法ニヨリ試驗セリ

- 第一區 七月二十日播
- 第二區 同月三十日播
- 第三區 八月十日播
- 第四區 八月二十日播
- 第五區 八月三十日播
- 第六區 九月十日播
- 第七區 九月二十日播

右ノ成績ニヨレバ第五區收量最モ多ク品質又優良ニシテ次ハ第一區、第六區、第七區ノ順ニ漸減シ第四區ハ虫害甚ダシク收量最モ少カリキ、本試驗ハ其年ノ氣候ト密接ノ關係ヲ有スルヲ以テ年々重テ試驗スルヲ要スルモノトス

十八、大根人糞尿用量試驗

本試驗ノ目的ハ大根ニ要スル人糞尿ノ適量ヲ知ラントスルモノニシテ左ノ方法ニヨリ施行セリ

- 第一區 六〇荷
- 第二區 七〇荷
- 第三區 八〇荷
- 第四區 九〇荷
- 第五區 一〇〇荷
- 第六區 一二〇荷

右ノ成績ニヨレバ第三區收量最モ多ク(當反一四五二貫)第四區之ニ次ギ第五區、第二區、第一區、第六區ノ順デ漸減ノ成績ヲ示セリ

十九、苾品種試驗

供試品種九種ニシテ收量最モ多キハ體菜ニシテ長崎白菜、朝鮮白菜、直隸白菜、金洲白菜、山東菜結球白菜、芝罘開城ノ順次ヲ以テ收量漸減セリ

尙積雪ニ對シテ最モ強キハ體菜、芝罘ニシテ長崎、山東、朝鮮、白菜、軟弱ナルヲ認メタリ次ニ結球容易ナルハ結球白菜、山東菜、直隸ニシテ朝鮮、金州ハ結球歩合惡シ一般ニ結球種ハ外觀美且纖維柔軟ニシテ漬物及煮食用トシテ品質頗ル優良ナルモ未ダ當地方ノ嗜好ニ適スルニ至ラザルヲ遺憾トス

二十、深葱品種試驗

供試品種六種ニシテ收量最モ多キハ府中(與謝郡在來種)ニシテ九條、府中大之ニ次ギ根深、千住、收量少ナカリシ、就中府中ハ收量多キノミナラズ品質又優良ケダシ有望ノ品種ナルベシ

二十一、漬菜窒素質肥料試驗

本試驗ノ目的ハ窒素質肥料ノ種類ガ漬菜ニ及ボス成績ヲ知ラントスルモノニシテ

- 人糞尿區 大豆粕區 硫酸アンモニア區
- 油粕區 智利硝石區 石灰窒素區
- 血粉區 タンケージ區 麵粉區
- 標準區 區ノ十區ニツキ試驗セルニ

麵粉區收量最モ多ク人糞尿區、石灰窒素區タンケージ區之ニ次ギ智利硝石區收量最モ少カリキ

二十二、漬菜三要素適量試驗

體菜ニ就キ左ノ方法ヲ以テ施行セリ

區名	窒素	區名	磷	酸	區名	加里
第一區	六貫	第一區	一貫	第七區	三貫	
第二區	五貫	第二區	二貫	第八區	四貫	
第三區	四貫	第三區	三貫	第九區	五貫	

右試驗ノ成績ニヨレバ第三區收量最モ多ク次ニ第二區、第一區、第五區、第七區、第八區ノ順ヲ以テ漸減シ收量最モ少ナキハ第九區ナリキ



二十三、葱同價肥料試驗(供試品種九條葱)  
 本試驗ハ反當リ施肥價格ヲ拾五圓ト定メ此ノ範圍内ニ於テ左記各種ノ肥料ヲ用ヒタリ  
 即チ表示スレバ

堆肥 大豆 灰粕 人糞 尿	第一區	堆肥 大豆 灰粕 木糞 人糞 尿	第二區	堆肥 大豆 灰粕 木糞 人糞 尿	第三區
六〇〇 一八 二二 四六七	第一區	六〇〇 二〇 一三	第二區	六〇〇 二〇 一三	第三區
堆肥 干木 灰 人糞 尿	第四區	堆肥 干木 灰 人糞 尿	第五區	堆肥 油木 灰 人糞 尿	第六區
六〇〇 一五 一五 三三〇	第四區	六〇〇 二八〇 一二	第五區	六〇〇 一八 一二	第六區
堆肥 大豆 灰粕 木糞 人糞 尿	第七區	堆肥 大豆 灰粕 木糞 人糞 尿	第八區	堆肥 乾木 灰 人糞 尿	第九區
六〇〇 二四 一五 三八四	第七區	二〇〇 二四 二四 一七五	第八區	二〇〇 二四 二四 一〇〇〇	第九區

右ノ成績ニヨレバ第四區第九區收量最モ多ク第二區、第七區、第六區、第一區、第三區之ニ次ヲ第  
 八區、第五區收量少ナキヲ示セリ

二十四、菘播種期試驗  
 本試驗ハ菘ノ適當ナル播種期ヲ見出サントスル目的ヲ以テ行ヘルモノニシテ左ノ方法ニヨリ試驗セ  
 リ

- 第一區 八月二十日播
- 第二區 八月三十日播
- 第三區 九月十日播
- 第四區 九月二十日播
- 第五區 九月三十日播

右ノ成績ヲ見ルニ八月三十日播收量最モ多ク八月二十日、九月十日、九月二十日、九月三十日播ノ  
 順次ヲ以テ收量漸減セリ

二十五、甘藷品種試驗

供試品種四種、右ノ成績ニヨレバ在來種ノ收量最モ多ク新薩摩之ニ次ギ源氏種收量最モ少カリキ  
 品質ノ點ニ於テハ新薩摩川越ヲ以テ主位トナシ在來種ハ最モ劣等ナリ

二十六、茄子品種試驗

供試品種十四種ニテ其試驗成績ニヨレバ橘田種收量最モ多ク早生山、山科、中生山、小芹川之ニ次  
 ギ清國大圓種收量最モ少カリキ  
 而シテ橘田ハ其色澤モ又佳良優良品種ノ一タルヲ失ハズ

二十七、南瓜品種試驗

供試品種七種、收量多キハ菊座ニシテ次ハ早生黒皮、縮緬及在來種、(綾部町附近)早生小南瓜、内藤ニシテ鹿ヶ谷(西京)收量最モ少カリキ而シテ早生黒皮ハ形小ナレドモ甘味強ク縮緬及鹿ヶ谷モ亦形態上市場ノ受ケ可良ナリ

二十八、南瓜肥料試験

本試験ノ目的ハ南瓜ニ對スル三要素ノ適量ヲ知ラントスルモノニシテ

區	名	窒素成分量	磷酸成分量	加里成分量
標準	加給區	八・九七一	七・七〇一	八・一二四
窒素	加給區	一一・七六八	六・九五六	八・〇四六
磷酸	加給區	八・六六八	八・四三六	八・〇四六
加里	加給區	八・六六八	七・五七五	九・九一八

其ノ成績ニヨレバ第二區收量最モ多ク次ハ加里加給區ニシテ標準區收量最モ少カリキ、思フニ南瓜ハ尙多量ノ窒素質肥料ヲ要求スルモノナランカ尙磷酸加給區ノ色澤佳良ナル傾向アルハ前年ト大差ナシ

二十九、越瓜品種試験

供試品種六種ニテ收量最モ多キハ加茂瓜ニシテ桂瓜次ギハ黒門ニシテ宮村種收量最少カリキ

三十、甜瓜試作

試作品種四種ニシテ梨甜瓜收量最モ多ク金甜瓜之ニ次ギ菊甜瓜、銀甜瓜ノ順ヲ以テ收量漸減セリ而シテ一般當地方ニ於テハ生食瓜類ニ對スル嗜好低ク甜瓜ノ需要少ナシ

三十一、蕃茄試作

試作品種八種ニシテ收量最モ多キハ「リービグストングローブ」ニシテ次ハ「ボンデロトザ」「カリムソソカツシヨン」「センチュリー」ノ順ニテ形狀極メテ小サク圓キ「チエリー」ハ收量最モ少ナカリキ而シテ「ボンデロトザ」ハ品質宜シク「クリムリニカツシヨン」ハ其色澤ニ於テ勝レタリ。當場ハ三十九年初メテ此ガ栽培ヲ試ミタリ、當時ハ特殊ノ風味アル果ノ生食ニ對スル嗜好ノ如キハ全ク上ラザリシガ其後嗜好ノ向上ニ力メタル結果近年ニ到リ僅ニ要求シ初メ昨年ニ於テ漸ク其需要廣マリ栽培上稍有望ノ蔬菜タルニ至レリ

三十二、莢豌豆試作

試作品種ハ三種ニシテ收量最モ多キハ佛國大莢豌豆ニシテ内國種之ニ次ギ札幌種收量最モ劣レリ、佛國種ハ市場用トシテ又自家用トシテ有望ナル品種ナレドモ只惜ム可キハ煮食ノ際莢ノ分離スルコト他ノ種類ヨリモ甚シキ傾アルコトナリ

三十三、玉蜀黍試作

試作品種五種ニシテ其成績ヲ見ルニ「アーリーチャムピオン」「ベラツクメキシカン」收量多ク「アーリーメロンポリタン」收量最モ少カリキ

(二) 果樹ニ關スル試驗

一、梨品種試驗

品質其他ハ前年ト異ラザレドモ收量多キハ長十郎ニシテ早生赤龍今村夏泰平等之ニ次ゲリ

二、葡萄品種試驗

供試品種十八種ニシテ收量多キハ「ペーコン」「カルマン」「エンバイヤステイト」「コンコード」「カタ  
ウバ」之ニ次ギ「デラウエア」「レデイワシントン」ハ品質良好ナレドモ收量劣レリ

三、苹果品種試験

國光、生娘收量多ク次ハ紅玉祝ニシテ紅魁ハ最モ少ナカリキ

其他

柿樹品種試験

洋梨品種試験

ナ行ヘリ

梅樹品種試験

桃品種試験

生栗殺虫法試験

生栗貯藏法試験

生栗貯藏力試験

栗品種試験

右ノ試験成績ハ臨時報告第二十一號栗ノ研究ニ詳細報告セリ其ニ就キ参照セラルベシ

其他

栗開園法試験

栗樹整枝法試験

栗砧木試験

栗嫁接期試験

等ヲ施行シツ、アルモ未ダ其性質上成績ヲ見ルニ到ラズ

(三) 見本試作

料理菊、食用大菊、バラモンジン、朝鮮アザミ、蒲公英、オイラ、リーキ、ヒルバーセリー、セルリー  
甘露兒、フダンソ、ビート、綠葉甘藍、蕪菁、甘藍、子持甘藍、茗荷、セージ、ラベンダー、紫蘇、  
デイル、陸ヒジキ、シユンギク、亞米利加防風、ミント、蓮根、慈姑、苦瓜、百合等ノ種類ヲ栽培シツ

ツアリ

其他款冬、枝豆、菠薐草、シユンギク、土當歸、三葉、アスバラガスニ對シテハ試験的ニ栽培シツ、ア

リ

試ミニ其販賣上ノ成績ヨリ概書センニ款冬ハ一貫匁貳拾錢、菠薐草ハ貳拾五錢、土當歸ハ拾八錢乃至貳  
拾錢、アスバラガスハ百匁貳拾五錢乃至參拾五錢ニシテ新舞鶴市場ニオイテ需用セラル。思フニ菠薐草  
三葉、シユンギクハ今後數年ナラズシテ有望ノ蔬菜タルニ至ルベシ

雜之部

(一) 圖書發刊

報告書類發刊  
大正二年度ニ於ケル發刊セシ報告書其他普及ノ爲メ印刷セシモノハ七千三百三十三部ト一枚摺二千百三十枚ナリ而シテ右報告書類ハ關係官衙、公署、學校、農事團體、農業篤志者等ニ配布セリ

名	稱	部	枚
京都府立農事試驗場業務功程		七〇〇部	
同 作付一覽		一、一三〇部	
同 野鼠室扶斯菌注意		一、〇〇〇部	
同 こやし <small>ノ</small> 榮		三、〇〇〇部	
京都府立農事試驗場石灰硫黃合劑ノ榮		一、〇〇〇部	
同 酸性土壤調查		一、四三三部	
同 栗 <small>ノ</small> 研究		一、二〇〇部	

(二) 野鼠驅除實施成績

昨年及本年度ニ於ケル野鼠驅除實施郡別及反別並ニ成績左ノ如シ

郡別	反別	大正元年	大正二年	成績
紀伊郡		六八五 <small>町</small>	四六四・〇 <small>町</small>	良

供試品名	件數	供試品名	件數
醸造用大麥	四一	硫酸アンモニア	二
厩肥	二	土壌(綾部)	二
過磷酸石灰	二	石炭灰	二
菜種油	三	米糠	二
菜種	二	人糞	四
木灰	一	蒸骨粉	一
計	五十三點		
(四) 場用分析件數		計 五十三點	
		依頼分析成分數 百三十九	
菜種油	四	硫酸アンモニア肥料	二
綿實	七	配磷合肥	八
魚肥	五	過蒸蹄角粉	二
ア肥	一	下製蹄角肥	一
寒天	一	食用	一
蛭汁	一	食用品	三
計	五十三點		

供試品名	件數	供試品名	件數
乙訓郡	五五六	久世郡	三〇九・五
愛宕郡	五〇	南桑郡	二四〇・〇
南桑郡	四〇〇	船井郡	一〇〇〇・〇
船井郡	一一〇〇	與謝郡	八〇〇・〇
與謝郡	一八〇	加佐郡	四六三・〇
加佐郡	四四	天田郡	四〇〇・〇
天田郡	二二〇	計	二四六六・五
計	三四三五		
(三) 依頼分析件數		備考	
		本年度ヨリハ從來ノブイヨン培養器ヲ寒天培養器ニ變更セントシ先ヅ乙訓及紀伊並ニ天田、與謝ノ四郡ヲ寒天ニテ施行セリ	
大骨	三	巴生石果皮	一
骨豆	一	塵埃	一
肉骨粉	三		
計	三		



本場	原種用 九斗五升	果樹 有價 四百本	綾部分場	苗 千八百九十本
	一般希 一石五斗	無價 千本	蔬菜類 種 五斗五合九勺	
	試作用 三斗七升	草花苗 有價 三百七十五株	種 九十九袋	
	計 二石八斗二升	無價 二十八株	苗 二千五百八十八本	
麥	裸麥 二石六斗二升	種子 無價 百二十袋	花卉類 種 百九十五袋	
	大麥 九斗五升		苗 百三十一本	
	小麥 一斗一升		果樹類 苗木 五貫六百匁	
種卵并種禽	計 三石六斗八升		栗接穗	
種禽	七百五十個			
種卵	百七十羽			

(八) 質問應答件數

本場	肥料土壤ニ關スル件 十三件	桃山分場	二件
	病虫害ニ關スル件 九件		三十四件
	栽培ニ關スル件 十一件		三十九件
	農具ニ關スル件 五件		二件
	養鶏ニ關スル件 七件	綾部分場	八件
			五十九件

種苗ニ關スル件 八件

其 他 十五件

二十七件

七件 十一件

(九) 文書受發件數

本場	受 一、六六二	發 四九六
桃山分場	一、四四九	五一六
綾部分場	一、〇六三	八三一

(一〇) 來觀人數

本場	七九九
桃山分場	五、四二八
綾部分場	二、八八三

(一一) 會計事務

大正二年度經費實支出額左ノ如シ  
 一金貳萬七百參拾九圓八拾四錢七厘  
 內 譯

科目	目	金額	
		本場	綾部分場
修事場雜俸計	給給	二、七〇六一四〇	一、一〇九三〇〇
	給給	一、七五八五五〇	七〇八三四〇
繕業	給給	一、二五一五三〇	八〇六四六五
	給給	三、四三九二七九	一、六八九四八三
費費	給給	一、五九九九五	五〇〇〇〇
	給給	九、三一五四八四	四、四六三三八八
計		九、七〇六、一四〇	五、五六八、四四〇

(二) 職員

本場  
 場長技師 山田登代太郎  
 技師(兼任) 近山廣二  
 同技師 堀江浩  
 同技師 久下多四郎  
 同書記 石川瀧太郎  
 同書記 羽野丈次郎  
 同書記 永木狷介  
 同書記 岩見勇造

科目	目	金額	
		本場	綾部分場
修事場雜俸計	給給	二、七〇六一四〇	一、一〇九三〇〇
	給給	一、七五八五五〇	七〇八三四〇
繕業	給給	一、二五一五三〇	八〇六四六五
	給給	三、四三九二七九	一、六八九四八三
費費	給給	一、五九九九五	五〇〇〇〇
	給給	九、三一五四八四	四、四六三三八八
計		九、七〇六、一四〇	五、五六八、四四〇

綾部分場  
 綾部分場 森下馬助  
 分場長技師 式地俊材  
 同技師 岸本虎助  
 同書記 大塚茂  
 同書記 增山與一  
 同書記 海老原茂  
 綾部分場 八木岡新右衛門  
 分場長技師 梅田徳重郎  
 技師 中路一郎  
 書記兼技師



42  
275

大正三年八月二十五日印刷  
大正三年八月二十七日發行

# 京都府立農事試驗場

(葛野郡桂村)

京都市上京區下立賣通小川東入  
西大路町十番戶

印刷者 中西勝太郎

京都市上京區下立賣通小川東入  
西大路町十番戶

印刷所 中西印刷合名會社

終

